

令和4年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)

適切な介護教員講習会のあり方に関する調査研究事業

報告書

令和5年3月

PwC コンサルティング合同会社

— 目 次 —

0. 調査研究の概要	1
1. 調査研究の背景と目的	1
2. 調査研究の方法	2
1) 検討委員会の設置・開催	2
2) 先行研究・調査分析の確認	3
3) 教員調査の実施	3
4) 介護教員講習会実施者調査の実施	4
I. 介護教員の課題に関する先行調査・研究 分析結果	6
1. 介護教員に求められる質向上と介護教員講習会の役割	6
2. 本調査・研究事業での先行調査・研究 分析の目的	6
3. 先行研究の検索方法	6
4. 介護教員の課題にかかる先行調査・研究の分析結果	7
1) 介護教員の保持すべき専門知識に関する課題	7
2) 個々の学生の能力・特性をふまえた指導・授業展開に関する課題	8
5. 先行調査・研究にかかるまとめ	8
1) 先行調査・研究の分析で明らかになったこと	8
2) 先行調査・研究の分析結果をふまえ本調査・研究事業で行うこと	8
II. 教員調査結果	9
1. 調査結果概要	9
1) 回答者の情報について	9
2) 講義に対する取組・課題	9
3) 介護教員講習会について	9
4) 教員としての自己研鑽にかかる取組・課題	11
2. 調査結果詳細	12
1) 回答者の情報について	12
2) 講義に対する取組・課題	16
3) 介護教員講習会について	25
4) 教員としての自己研鑽にかかる取組・課題	38
III. 介護教員講習会実施者調査結果	44
1. 調査結果のまとめ方について	44
2. 調査結果	44
1) 講習概要-受講者にかかる分類	44
2) 講習概要-事務局運営にかかる分類	45
3) 科目別講習カリキュラム体系(時間数)	45
IV. 調査結果に関する検討委員会意見	46
1. 介護教員講習会全般に関する意見	46
1) 新設科目について	46
2) 各講習科目における指導内容に関する規定について	46
3) 各科目の受講順序の規定について	46
4) 介護教員講習会に関する質の均てん化について	47
5) 介護教員講習会における実施内容の明示について	47
2. 介護教員講習会の受講者に関する意見	47
1) 受講者要件の設定について	47
2) 受講定員要件について	47
3) 修了要件の標準化・明確化について	47

4) 講習免除要件について	47
3. 事業者の運営に関する意見	48
1) 介護教員講習会の開催方法について	48
2) 受講料の均てん化について	48
3) 介護教員講習会の受講後フォローアップについて	48
4) 講師要件について	48
4. 介護教員講習会の時間数に関する意見	49
付属資料	51
1) 教員調査票	53
2) 介護教員講習会実施者調査(アンケート調査票)	61

0. 調査研究の概要

1. 調査研究の背景と目的

日本の生産年齢人口¹は、1995年に8,726万人²に達した後、減少局面に入り、2022年現時点以降も減少し続けると予測されている。2025年には、いわゆる「団塊世代」が75歳を迎え、75歳以上の高齢者が2,000万人を超えることとなる。また、就業者数については、2040年には5,200万人程度と2019年度と比較して1,500万人の減少が見込まれている³。少子高齢社会の進展に伴い、生産年齢人口が減少し、働き手の確保が一層難しくなることが予想されるなか、高齢化に伴う福祉のニーズが増大することが予想され、大きな社会構造の変革期を迎えているといえる。

一方、2020年の全職業での有効求人倍率は1.08倍であるが、介護サービスの職業の有効求人倍率は3.99倍⁴と、全分野の有効求人倍率を大きく上回り、人手不足であることがわかる。第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づいた都道府県による推計によると、令和5（2023）年度には約233万人、令和7（2025）年度には約243万人、令和22（2040）年度には約280万人の介護職員が必要となる見込みであることが示され⁵、将来的に上記必要数を満たすため、介護人材確保は喫緊の課題である。

これらの状況を踏まえ、国は「総合的な介護人材確保対策」⁶として「①介護職員の処遇改善」、「②多様な人材の確保・育成」、「③離職防止・定着促進・生産性向上」、「④介護職の魅力向上」、「⑤外国人材の受入れ環境整備」などに取り組んでいる。このうち、「②多様な人材の確保・育成」における介護人材においては、これまでの専門性や機能分化に乏しい「まんじゅう型」の状態から、多様な人材の参入を促し裾野を広げつつ、介護福祉士等による高度な専門性を担保する機能分化を実現する「富士山型」へと構造転換が進められている。本構造転換のためには、人材の層に応じたきめ細かな方策を講じることとされている一方、介護の専門職人材である介護福祉士には、介護業務のマネジメントや、現場でのチームリーダー等、社会福祉・社会保障のスペシャリストとしてのキャリア形成を重視していくことが望まれている。

このような中、平成13年には、「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則」で、介護福祉士の養成教育の質を担保するための「介護教員講習会」が定められ、平成14年から実施されている。

しかしながら、本講習会については、介護教員講習会実施事業者（以下、事業者という）により運営の体制や講習会の内容に差があるという課題があり、一定の標準化が必要とされているほか、平成20年に行われた介護福祉士養成課程のカリキュラム改正、外国人留学生の増加による学生像の変化などがあり、介護福祉士養成施設等（介護福祉士養成施設および福祉系高校を指す。以下、養成施設という）教員には、これらの変化を踏まえた教授の視点や指導力が求められているところである。

こうした状況を踏まえ、本事業では、介護教員講習会の実態を明らかにするとともに、本講習会の運営にあたっての課題や、受講者である養成施設教員からの要望などを把握し、適切かつ効果的な講習のあり方の検討を行うことを目的として調査研究を実施した。

1 ここでは、15～64歳のことを指す。

2 総務省統計局(1995)、「平成7年国勢調査」,参照日:2021年10月5日,参照先:総務省,<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/1995/index.html>

3 厚生労働省(2020)、「令和2年版厚生労働白書—令和時代の社会保障と働き方を考える—」,参照日:2022年7月27日,参照先:厚生労働省,<https://www.mhlw.go.jp/content/000735866.pdf>

4 厚生労働省(2021)、「一般職業紹介状況(令和2年12月分及び令和2年分)について—職業別一般職業紹介状況[実数](常用(含パート))」,参照日:2022年7月27日,参照先:厚生労働省,https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000192005_00010.html

5 厚生労働省(2021)、「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」—別紙1 第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について—,参照日:2022年7月27日,参照先:厚生労働省,<https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000804129.pdf>

6 厚生労働省(2021)、「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」—別紙3 総合的な介護人材確保対策(主な取組)—,参照日:2022年7月27日,参照先:厚生労働省,<https://www.mhlw.go.jp/content/12004000/000804131.pdf>

2. 調査研究の方法

1) 検討委員会の設置・開催

当該分野に精通した有識者からなる検討委員会を設置し、その議論を踏まえて調査研究を進めた。なお、研究会は、以下の通り2回開催した。

適切な介護教員講習会のあり方に関する調査研究事業 委員名簿

(50音順)

委員長 秋山 昌江	聖カタリナ大学 人間健康福祉学部 教授
真田 龍一	全国福祉高等学校長会 事務局
白井 孝子	東京福祉専門学校 副学校長
野田 由佳里	日本介護福祉士養成施設協会 理事/教育力向上委員会委員長
平野 啓介	日本医療大学 総合福祉学部 介護福祉マネジメント学科 准教授
望月 玲子	千葉県立松戸向陽高等学校 福祉教養科 学科主任(教諭)
吉岡 俊昭	日本介護福祉士会 常任理事

<研究協力(オブザーバー)>

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

<事務局>

PwC コンサルティング合同会社 安田 純子/岡田 泰治

<開催日程および議題>

回数	日程	議題
第1回	2022年12月27日(火) 10:00~12:00	○調査研究の目的・内容(認識の共有) ○介護教員講習会実施者調査についてのディスカッション ○教員調査の視点・項目に関するディスカッション
第2回	2023年3月1日(水) 10:00~12:00	○アンケート調査結果に関するディスカッション ○教員調査についてのディスカッション ○介護教員講習会の在り方についてのディスカッション

2) 先行研究・調査分析の確認

介護教員にかかる指導上の課題を明らかにすることを目的として、先行調査・研究の確認を行った。確認結果においては、以下「3) 教員調査の実施」「4) 介護教員講習会実施者調査の実施」に記載する各種調査の調査票作成における基礎資料として使用した。

3) 教員調査の実施

(1) 調査設計

介護福祉士を養成する介護福祉士養成校の教員のうち、介護教員講習会を受講した教員において、受講した講習会の内容や、講習会の効果、講習会に望むこと、また既存の自身の学生指導における課題点や困りごと等の実態を調査するため、「介護教員講習会に関するアンケート調査」を実施した。

図表 主なアンケート調査項目

【教員調査】

- ・教員基礎情報・教員の講義の取り組み状況
- ・教員が受講した介護教員講習会
- ・教員の自己研鑽の取り組み

(2) 調査対象

以下の調査対象に対し、悉皆でアンケート調査票を配布した。

《調査対象》※悉皆

介護教員講習会受講済み(全部・もしくは一部)の

- ・養成校教員の皆様
- ・福祉系高校に所属する教員の皆様

※受講済みの教員数に関する基礎統計は存在しないため、母数は不明

(3) 調査方法

日本介護福祉士養成施設協会 および 全国福祉高等学校長会より会員校にメールにて調査依頼をいただき、WEB アンケート形式にて調査票を回収した。

(4) 調査期間

令和5年1月18日(水)～令和5年1月31日(火)

(5) 回収状況

《有効回答》

介護教員 : 387人

4)介護教員講習会実施者調査の実施

(1)調査設計

① アンケート調査

現在開催されている介護教員講習会における運営実態やカリキュラムの内容を確認するため、令和4年度時点で本講習会を開催している事業者にアンケート調査を行った。

図表 主なアンケート調査項目

【実施者調査】 <ul style="list-style-type: none">・介護教員講習会運営概要(開始年度、開催数、要綱以上の独自項目等)・受講者概要(受講者要件、受講者数、受講者属性等)・講師概要(講師要件、講師数等)・講習運営における課題

② 資料調査

令和4年度時点で介護教員講習会を開催している実施者、及び厚生労働省より、講習実施にかかる各種資料を送付いただき、整理を行った。

図表:整理ため入手した資料

項目	入手資料
研修関連資料	募集要綱、カリキュラム・日程表(含む時間割表)、研修シラバス資料、講師作成の講義計画書 等
研修教材	講師作成のパワーポイント・レジюме、配布資料(演習課題シート、補足説明資料) 等

(2)調査対象

① アンケート調査

以下の調査対象に対し、悉皆でアンケート調査票を配布した。

《調査対象》※悉皆

令和4年度時点で介護教員講習会を開催している事業者

6団体

② 資料調査

以下の調査対象に対し、悉皆で資料提供依頼を行った。

《調査対象》※悉皆

令和4年度時点で介護教員講習会を開催している事業者

6団体

(3)調査方法

① アンケート調査

弊社よりエクセル形式の調査票を各団体にメール送付し、メールにて調査票を回収した。

② 資料調査

弊社より依頼状をメール・郵送にて送付し、メール・郵送にて資料を入手した。

(4)調査期間

① アンケート調査

令和4年11月24日(木)～令和5年1月31日(火)

② 資料調査

令和4年11月24日(木)～令和5年1月31日(火)

(5)回収状況

① アンケート調査

《有効回答》

令和4年度時点で介護教員講習会を開催している事業者：4団体(回収率 66.7%)

② 資料調査

《有効回答》

令和4年度時点で介護教員講習会を開催している事業者：4団体(回収率 66.7%)

I. 介護教員の課題に関する先行調査・研究 分析結果

1. 介護教員に求められる質向上と介護教員講習会の役割

介護人材の確保については、これまでの専門性や機能分化に乏しい「まんじゅう型」の状態から、多様な人材の参入を促し裾野を広げつつ、介護福祉士等による高度な専門性を担保する機能分化を実現する「富士山型」へと構造転換が進められている。このために、人材の層に応じたきめ細かな方策を講じることとされている一方、介護の専門人材である介護福祉士には、介護業務のマネジメントや、現場でのチームリーダー等、社会福祉のスペシャリストとしてのキャリア形成を重視していくことが望まれている。

これら専門的な介護人材の養成については、養成施設にて多くの人材が輩出されることへの期待が高まっている。養成校においては、2019年度からの養成課程への新カリキュラム導入、外国人留学生の増加による学生像の変化などがあり、介護教員には、これらの変化を踏まえた教授の視点や指導力が求められているところである。

そのような中、介護教員を受講対象者とする介護教員講習会については、講習科目・目標等の共通項⁷はあるものの、具体的な指導内容については事業者により異なることが想定されるほか、運営の体制や講習会の内容に差があることも想定され、一定の標準化が必要といえる。

2. 本調査・研究事業での先行調査・研究 分析の目的

当該講習会の標準化を行っていくためには、講習会運営の課題を明らかにする必要がある。課題については、運営・内容と多岐にわたることが想定されるが、前述した指導内容を主とした標準化を行う必要があることを鑑みると、まずは講習の内容における課題を抽出する必要があると考えられる。さらに、当該講習が介護教員養成を目的とした講習であることを鑑みると、既存の介護教員がどのような課題を持ち、それらの課題をサポートできるような講習内容になっているか、との点を明らかにしていくことが重要であると考えられる。

このため、以下の観点を確認することを目的に、先行調査・研究の分析を行うこととした。

図表:本先行調査・研究の目的

目的
介護教員にかかる、指導上の課題を明らかにすること。

3. 先行研究の検索方法

本章「2. 本調査・研究事業での先行調査・研究 分析の目的」で述べた目的をふまえ、Google Scholarにて、介護教員に関連するキーワードに該当する文献を検索した⁸ところ、計10件が該当した。なお、該当文献数が少なかったため、査読の有無は問わず収集することとした。また、論文以外の報告書・調査結果等も検索し、該当6件を加えた計16件を収集した。

図表:検索結果(全体)

検索カテゴリ	検案件数
介護教員 AND 課題	4件
介護 AND 教員 AND 課題	6件
上記カテゴリを問わず論文以外の報告書等	6件

⁷ 厚生労働省.社会福祉士実習演習担当教員講習会及び介護教員講習会の実施について.(最終改正)令和2年3月6日社援発0306第26号,2020

⁸ 文献検索はR4.9.20に行い、当該文献についてR4.9月に収集した。文献抽出期間は2012年-2022年である。

4. 介護教員の課題にかかる先行調査・研究の分析結果

収集した 16 文献の研究内容は、大きく分けて【介護教員の保持すべき専門知識に関する課題】、【個々の学生の能力・特性をふまえた指導・授業展開に関する課題】、【その他】に分けられた。【その他】に関する文献は 6 件あったが、介護制度概要や、福祉系高校の教員要件、講習会のカリキュラム概要に関する内容であり、確認対象から除外した。

以下、対象となる 10 文献について、カテゴリの名称と該当する文献数を示す。

図表:介護教員の課題にかかる文献カテゴリ

文献カテゴリ	文献数
介護教員の保持すべき専門知識に関する課題	9 件
個々の学生の能力・特性をふまえた指導・授業展開に関する課題	4 件
その他	6 件

※1 文献に複数テーマのトピックが記載されている場合があり、同一文献を複数カウントしていることに留意

以下、上記文献の記載内容を述べるが、文章内には、当該文献にて参考文献として紹介された文献の内容に関しても触れていることにご留意いただきたい。

1) 介護教員の保持すべき専門知識に関する課題

昨今の学生像の特徴として、「コミュニケーション能力」、「対人関係能力」、「基本的マナー」、「自分で生産する活動や社会性」等に未熟さが見られる⁹と指摘されている中、介護教員が最も必要度が高いと認識する教育内容においても、「対人関係力・コミュニケーション力」、「社会的マナー」等の社会人基礎力に関する事柄が挙げられている¹⁰。

そもそも、介護実践で求められる重要な力と社会人基礎力は共通性が見られるほか、社会人基礎力と介護福祉士養成の教育プログラムの内容には類似点が多い¹¹ことから、介護教員は、学生の社会人基礎力の指導に労力を要していることがうかがえる。

また、介護教員講習会の科目である専門分野「介護福祉学」、「介護過程の展開方法」について、介護教員からの学び直しの意向が高いと報告されている¹²ほか、介護実習において、介護教員がどのように実習に関与すべきか理解できていない旨の指摘がある¹³ことや、実際に学生の指導をするにあたり、「求められる介護福祉士像」や「介護福祉士養成課程における習熟度評価基準」を理解し、意識して養成教育に当たっている介護教員が多くないと報告がある¹⁴ことから、学生指導にあたっての専門知識が不足していることがうかがえる。

さらに、こういった知識については、介護教員自身が自己研鑽を継続して行っていく必要があることが想定されるが、実情として、教育活動以外の業務のみならず、講義の準備や学生指導などの教育に多くの時間を割いており、学会や研究まで着手できないといった指摘¹⁵¹⁶がされている。

また、こういった介護教員自身の自己研鑽の時間捻出の要素以外にも、介護教員所属校の学外研修等参加時の時間的・経済的サポートが薄いと現状がある¹⁷ほか、学内研修も実施されていない傾向にあるという報告¹⁸も挙げられている。

⁹ 文部科学省、今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について、第二審議経過報告、2010

¹⁰ 横山さつきほか、介護福祉士養成課程における教育の実態と課題—「社会人基礎力」に注目して—、中部学院大学・中部学院短期大学 部 研究紀要、2016、17、pp.127-137

¹¹ 三上ゆみほか、介護福祉士養成校における初年次教育の取り組み、新見公立大学紀要、2013、34、pp.55-59

¹² 日本介護福祉士養成施設協会、介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業 調査報告書、2021、p.12

¹³ 福田明ほか、介護実習指導者の「自信のなさ」に関する要因と改善に向けた課題の研究面接—調査結果のテキストマイニングによる分析を通じて—、最新社会福祉学研究、2018、13、pp.1-14

¹⁴ 日本介護福祉士養成施設協会、介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業 調査報告書、2021、pp.69-72

¹⁵ 堀江竜弥ほか、介護福祉士を養成する教員のストレスとバーンアウトとの関連、介護福祉教育、2018、23(2)、pp.188-195

¹⁶ 堀江竜弥ほか、介護福祉士養成施設に所属して間もない教員の就業実態と職業ストレス、介護福祉教育、2018、23(2)、pp.180-187

¹⁷ 堀江竜弥ほか、介護福祉士養成学校に所属する教員のキャリアアップに対する認識、仙台大学紀要、2021、53(1)、pp.18-20

¹⁸ 日本介護福祉士養成施設協会、介護福祉士養成施設の教員の教育力向上に関する調査研究事業 調査報告書、2021、p.11

2) 個々の学生の能力・特性をふまえた指導・授業展開に関する課題

現状でも、習熟度別クラスの展開・個別面談や生活指導等も行われているものの、社会人・外国人留学生等、生徒のバックグラウンドが多様化する中、個人差に対応した授業準備・授業展開ができていない旨の指摘がされていた¹⁰。当該個人差に対応した授業展開方法については、介護教員が考える教育上の課題としても同様に挙げられている¹⁸。

さらに、他科目との教育内容の連携、新たな資料や教材の開発等の授業を深め方、生活指導・カウンセリング等個別指導に関する対応方法についても、介護教員の課題であることが分かっている¹²。

5. 先行調査・研究にかかるまとめ

1) 先行調査・研究の分析で明らかになったこと

介護教員においては、養成課程の科目にかかる専門知識のみならず、「対人関係力・コミュニケーション力」、「社会的マナー」等の社会人基礎力の指導にかかる知識、学生への個別指導・授業展開方法等についての知識が不足していることが明らかとなった。このような知識不足により、介護教育にも影響が出ていることも明らかとなり、早急に対応が必要であることがうかがえる。

また、当該知識をつけるための自己研鑽については、介護教員の業務過密等を理由として、十分に時間を捻出できていないことも明らかとなった。

一方、これら介護教員の持つ課題を解決する際に必要な概念と考えられる専門科目ごとの適切な指導方法の在り方、個別指導の方法、業務効率化の方法等について言及した文献はみられず、今後明らかにされるべき点と考えられる。

さらに、これら介護教員の持つ課題については、当該教員が受講対象となる介護教員講習会において課題解決が図られることが望ましいといえるが、現状の講習会の運営・内容については、プログラムそのものが受講生の多様性を想定していない旨の指摘がある¹⁴ほか、講習各科目における目標・講義内容は示されているものの、内容は担当講師の力量に依存し、内容のばらつきが想定される等の指摘¹⁹がされているところである。

2) 先行調査・研究の分析結果をふまえ本調査・研究事業で行うこと

前述した介護教員の持つ課題を解決していくにあたり、既存の介護教員講習会の受講がどの程度有益か、またより有益な講習とするために必要な事柄は何かについて明らかにしていくことが必要である。

現状では、既存の介護教員講習会の運営実態・学習内容の実態が明らかになっていないことから、まずはこの点を明らかにしていくことが必要と考えられる。また同時に、既存の介護教員の持つ課題の把握を詳細にしていくことで、介護教員講習会にて取り扱うべき事柄を明らかにしていくことも必要である。

上記を踏まえ、本調査・研究事業では、介護教員講習会の実態分析、介護教員調査等を通し、あるべき講習会の姿を検討することを目的とする。

¹⁹ 日本社会事業大学、介護教員講習会あり方に関する基礎的研究, 2011, pp.163-164

II. 教員調査結果

1. 調査結果概要

1) 回答者の情報について

- 教員としての属性については「養成施設教員」が 79.8%、「福祉系高校教員」が 20.2%であった。
〔P12〕
- 教員としての経験年数は「5年未満」が 14.7%、「5～9年」が 23.3%、「10～14年」が 20.9%、「15～19年」が 19.1%、「20年以上」が 22.0%であり、教員経験が短い方から長い方といずれからも回答があり、経験年数では、属性の偏りは見られなかった。〔P13〕

2) 講義に対する取組・課題

- 講義に関する教員としての取組について、取組に関する対応内容を5種に分類し、それぞれ対応状況を伺ったところ、以下の通りであった。
 - ・ 授業を行う上での事前準備にかかる各種取組については、＜授業案の作成＞が 59.3%、＜領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり＞が 61.4%、＜教育に含むべき事柄と留意点を理解した授業づくり＞が 58.5%、＜学生やクラスの状況に合わせた授業づくり＞が 59.9%「概ね対応できている」と回答した割合が6割前後であり、他の項目に比べて割合が高い傾向にあった。〔P16〕
 - ・ 科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組については、＜介護実習施設との連携＞が「概ね対応できている」が 43.7%と最も高かった。〔P17〕
 - ・ 各種授業展開方法については、＜グループワークの展開＞が「概ね対応できている」が 50.7%と最も高かった。〔P18〕
 - ・ 学生の指導や評価にかかる各種取組については、＜生活指導・カウンセリング等、学習以外のサポートを必要とする学生への個別対応＞では「概ね対応できている」が 41.5%と最も高かった。〔P19〕
 - ・ 学生の社会人基礎力習得の指導にかかる取組については、「概ね対応できている」が 33.0%であった。〔P20〕
- 前述の5種の教員としての対応事項についての課題感を伺ったところ、「その他」を除くと、いずれの対応事項も「課題を感じる」＋「やや課題を感じる」と回答した教員が8割であった。
〔P21〕
- 前述の5種の教員としての対応事項に関して、教員として介護福祉士養成を始める前に学習しておくべきと思う事柄であるかを伺ったところ、概ねすべての項目で9割強「そう思う」＋「ややそう思う」と感じている結果となった。〔P22〕
- 先行研究で定義づけられている看護教員向けの能力発揮状況の項目を活用し、本調査対象である介護分野の教員としての能力の発揮状況を確認したところ、「研究能力」が最も発揮されておらず「大いに発揮している」＋「中程度発揮している」が 45.5%であった。〔P23〕

3) 介護教員講習会について

- 介護教員講習会を受講した理由については「介護教員の職務に就くため」が 78.0%と最も高く、受講した実施主体は「公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会」が 63.4%と最も高かった。
〔P25〕
- 受講した介護教員講習会の実施主体を選んだ理由としては、「受講スケジュール等の都合が良かったから」が 48.8%と最も高く、次いで「受講場所の都合が良かったから」が 42.4%と続いた。〔P26〕

- 講習会の費用負担の補助の有無については、「全額、費用の補助があった」が 60.3%と最も高かった。〔P26〕
- 介護教員講習会を受講した時期については、「介護教員の職務を経験した後」に講習会を受講した教員が 70.6%であり、教員経験「1年」目で 41.8%の教員が受講していた。〔P27〕
- 介護教員講習会修了の状況については、79.8%の教員が「すべての科目を終了」しており、そのうち、選択した基礎分野は「社会福祉学」が 88.9%と最も高かった。〔P28〕
- 受講後の学び直しの機会提供の有無については、受講した介護教員講習会で学び直しの機会が「あった」と回答した割合は 8.9%であった。〔P30〕
- 受講した介護教員講習会の各種項目について受講満足度を伺ったところ、いずれの項目においても「満足」＋「やや満足」と回答した割合が 9 割程度であった。〔P30〕
- 前述の 5 種の教員としての対応事項に関して、受講後の役立ち度を伺ったところ、＜講義準備等、授業を行う上での事前準備＞が「役に立っている」が 46.5%と最も高く、＜学生の社会人基礎力に関する指導＞が「役に立っている」が 19.1%と最も低かった。〔P31〕
- 講習を受講して満足に感じた点としては、以下が挙げられた。
 - ・ 【講師の能力・対応】については、「講師の専門性が高い（ベテランを含む）」が 43 件と最も多かった。〔P32〕
 - ・ 【講習のカリキュラム・内容】については、「学習が充実していた／バランスがよかった」が 18 件と最も多かった。〔P33〕
 - ・ 【運営事務局（事務手続き等）】については、「対応が丁寧であった」が 26 件と最も多かった。〔P33〕
 - ・ 【講習会場・設営等】については、オンライン開催の講習の場合、「移動の必要がない（時間や費用のメリット）」が 11 件と最も多く、現地開催の講習の場合、「施設や環境の評価」が 17 件と最も多かった。〔P34〕
 - ・ 【その他】については、「受講生や講師との交流」が 8 件と最も多かった。〔P34〕
- 講習を受講して不満に感じた点としては、以下が挙げられた。
 - ・ 【講師の能力・対応】については、「講師と科目のミスマッチ（テキストとの狙いと授業の内容が乖離も含む）」が 15 件と最も多かった。〔P35〕
 - ・ 【講習のカリキュラム・内容】については、「カリキュラムの不足や科目間の連動不足・科目名と内容が乖離」が 12 件と最も多かった。〔P36〕
 - ・ 【運営事務局（事務手続き等）】については、「レスポンスが遅い」、「手続きが煩雑（確認が困難も含む）」、「テキストや課題図書を購入強要や入手が困難」がそれぞれ 5 件と最も多かった。〔P36〕
 - ・ 【講習会場・設営等】については、オンライン開催の講習の場合、「他受講生と直接交流ができない」が 5 件と最も多く、現地開催の講習の場合、「会場へのアクセスが悪い」が 7 件と最も多かった。〔P37〕
 - ・ 【その他】については、オンライン開催の講習の場合、「実施スケジュールに課題がある」が 6 件と最も多かった。〔P37〕

4) 教員としての自己研鑽にかかる取組・課題

- 教員講習会の科目の中で学び直しの必要性を感じている科目について伺ったところ、「(専門基礎分野) 教育方法」が 44.4%と最も高く、次いで「(専門分野) 学生指導・カウンセリング」が 42.6%、「(専門基礎分野) 教育評価」が 42.0%、「(専門分野) 研究方法」が 40.2%と続き、いずれも介護の専門分野に関する科目ではなく、学生の指導や評価にかかる項目がいずれも高かった。【P38】
- 前述の5種の教員としての対応事項に関して、自己研鑽が必要だと感じている事柄を伺ったところ、「様々な手法を活用した授業展開」が 49.3%と最も高く、次いで「講義準備等、授業を行う上での事前準備」が 36.4%、「学生の個別指導や評価」が 33.1%であった。【P39】
- また、どのような自己研鑽が必要か伺ったところ、以下の意見が挙げられた。
- ・ 【講義準備等、授業を行う上での事前準備】については、「新たな知見や知識の吸収」が 22 件と最も多かった。【P40】
 - ・ 【科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組】については、「他職種との連携 (実習指導者との連携も含む)」が 17 件と最も多かった。【P40】
 - ・ 【様々な手法を活用した授業展開】については、「オンライン授業の準備 (ICT の活用)」が 33 件と最も多かった。【P41】
 - ・ 【学生の個別指導や評価】については、「多様な学生への配慮 (疾患、障害など)」が 32 件と最も多かった。【P41】
 - ・ 【学生の社会人基礎力に関する指導】については、「社会人基礎力が低い方への配慮した教育」が 25 件と最も多かった。【P42】
 - ・ 【その他】については、「新しい知識の習得や学びなおし」が 7 件と最も多かった。【P42】
- 介護教員講習会の在り方について自由に意見を伺ったところ、介護教員講習会の在り方については、今後の要望に関する意見が多く、「資格の更新制やフォローアップ研修の要望」が 30 件と最も多かった。【P43】

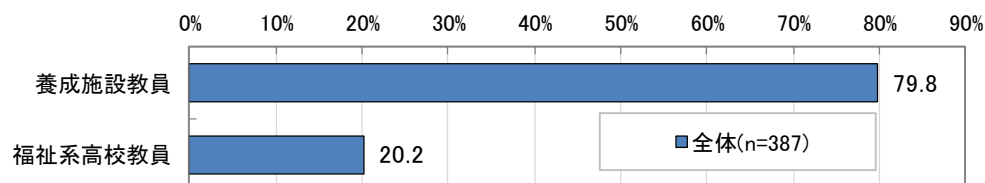
2. 調査結果詳細

1) 回答者の情報について

① 教員としての属性

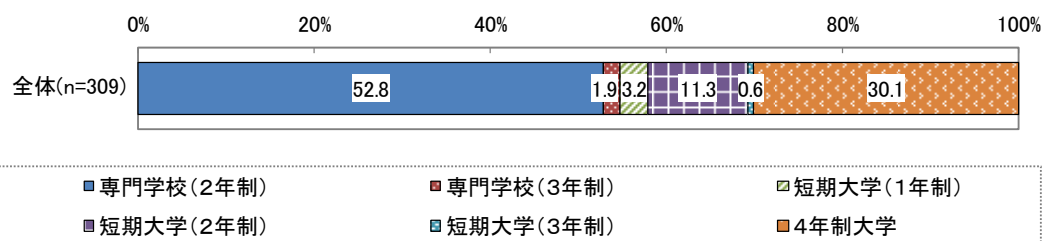
問 1. あなたの教員としての属性を教えてください。(複数選択)

・「養成施設教員」が 79.8%、「福祉系高校教員」が 20.2%となっている。



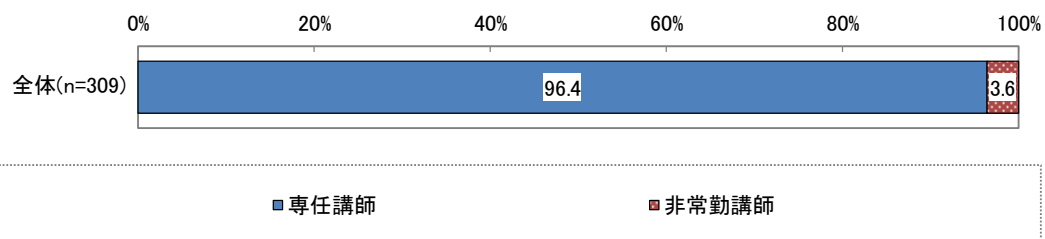
問 1-1. 【問 1 で「1. 養成施設教員」と回答した方】あなたが所属する養成施設の種別を教えてください。

・「専門学校（2年制）」が 52.8%と最も高く、次いで「4年制大学」が 30.1%、「短期大学（2年制）」が 11.3%であった。



問 1-2. 【問 1 で「1. 養成施設教員」と回答した方】あなたが、現在所属する養成施設で、教員としてどのようなお立場にあるか、教えてください。

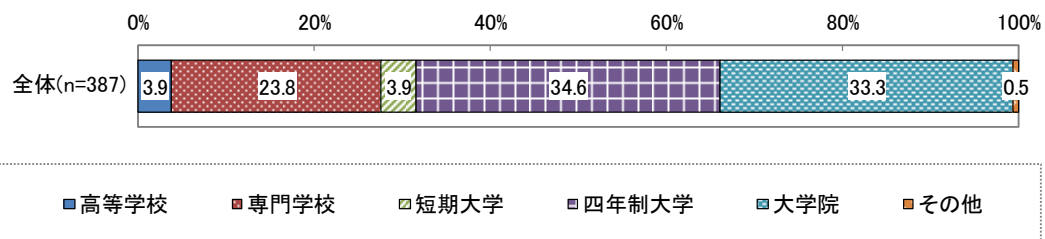
・「専任講師」が 96.4%、「非常勤講師」が 3.6%となっている。



② 最終学歴

問 2. あなたの最終学歴を教えてください。

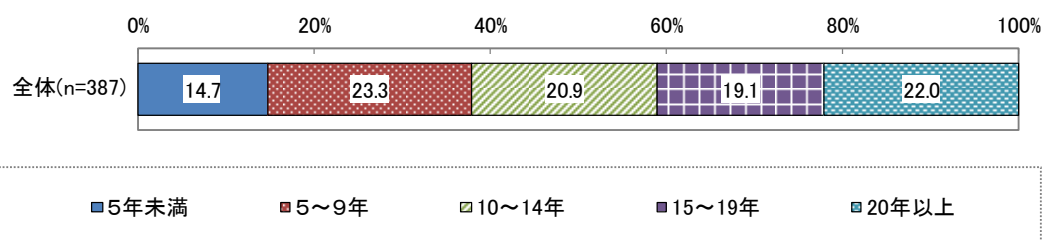
- ・「四年制大学」が 34.6%と最も高く、次いで「大学院」が 33.3%、「専門学校」が 23.8%であった。



③ 教員としての経験年数

問 3. あなたの養成施設・福祉系高校での教員としての経験年数が何年あるかについて、教えてください。(記述式)

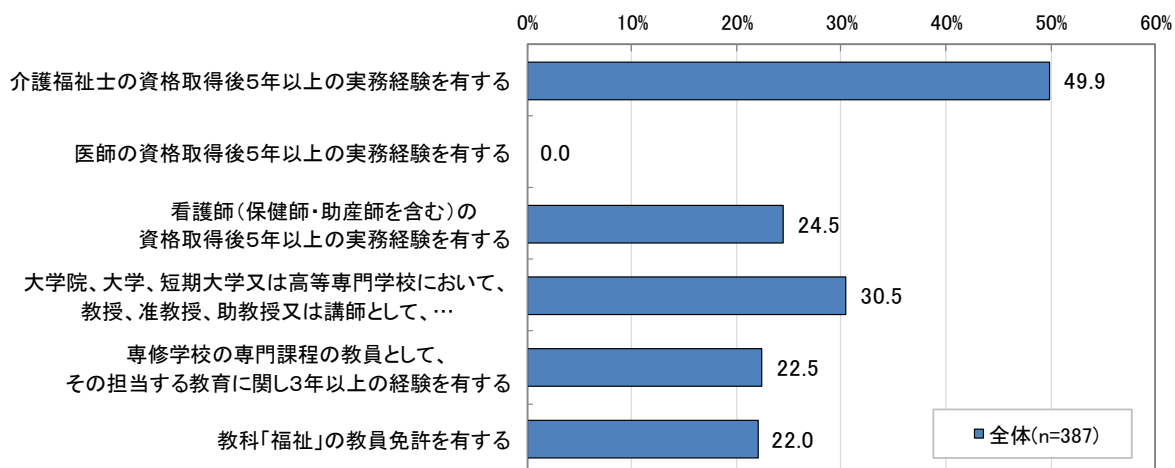
- ・「5～9年」が 23.3%と最も高く、次いで「20年以上」が 22.0%、「10～14年」が 20.9%であった。



④ 保有資格

問 4. あなたの保持する資格について、以下に該当するものがあるか教えてください。(複数選択)

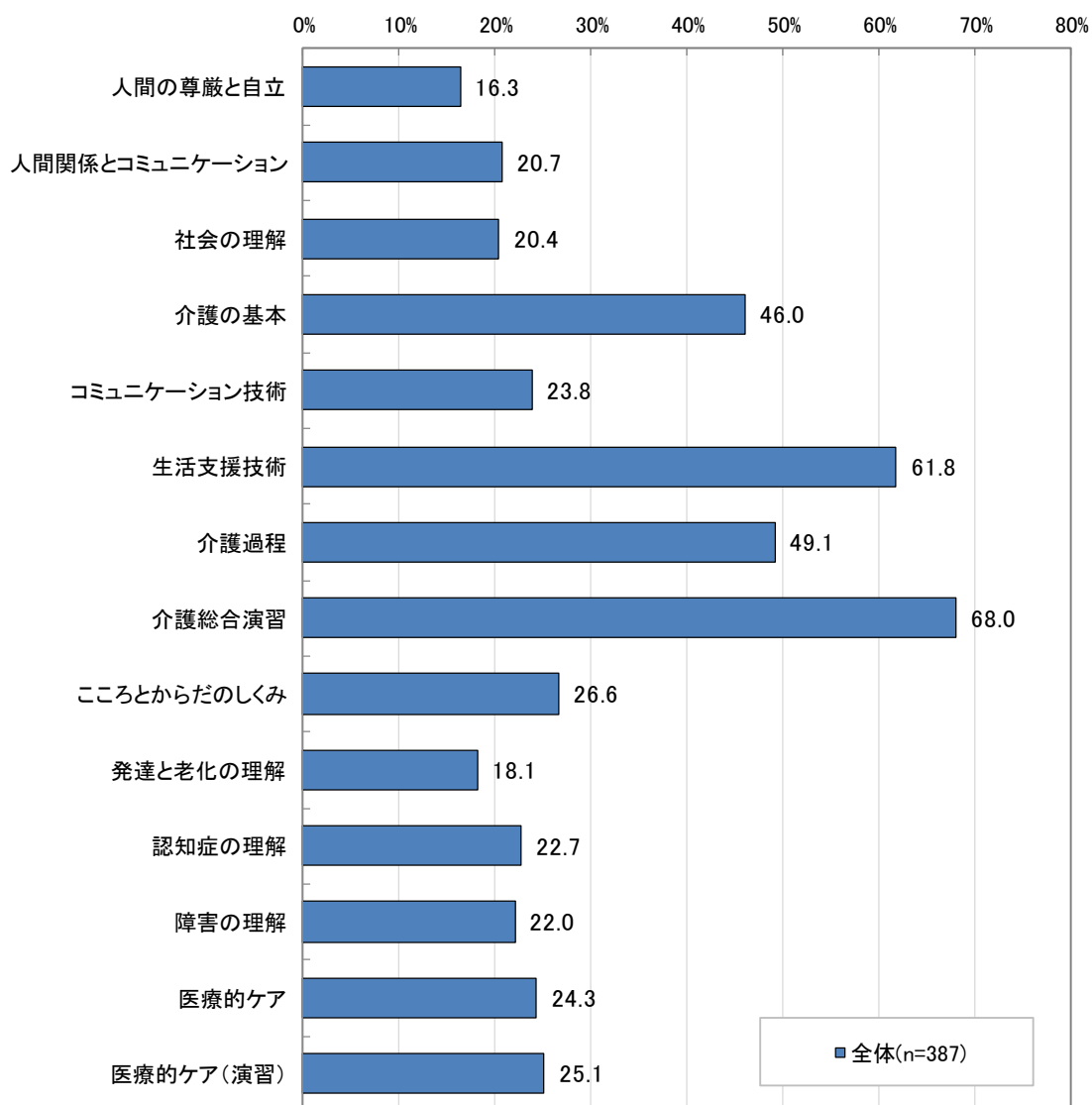
- ・「介護福祉士の資格取得後5年以上の実務経験を有する」が49.9%と最も高く、次いで「大学院、大学、短期大学又は高等専門学校において、教授、准教授、助教授又は講師として、その担当する教育に関し教授する資格を有する」が30.5%、「看護師(保健師・助産師を含む)の資格取得後5年以上の実務経験を有する」が24.5%であった。



⑤ 担当科目

問 5. 本年度、あなたが教員として所属校で担当している科目を教えてください。(複数選択)

・「介護総合演習」が 68.0%と最も高く、次いで「生活支援技術」が 61.8%、「介護過程」が 49.1%、「介護の基本」が 46.0%であった。

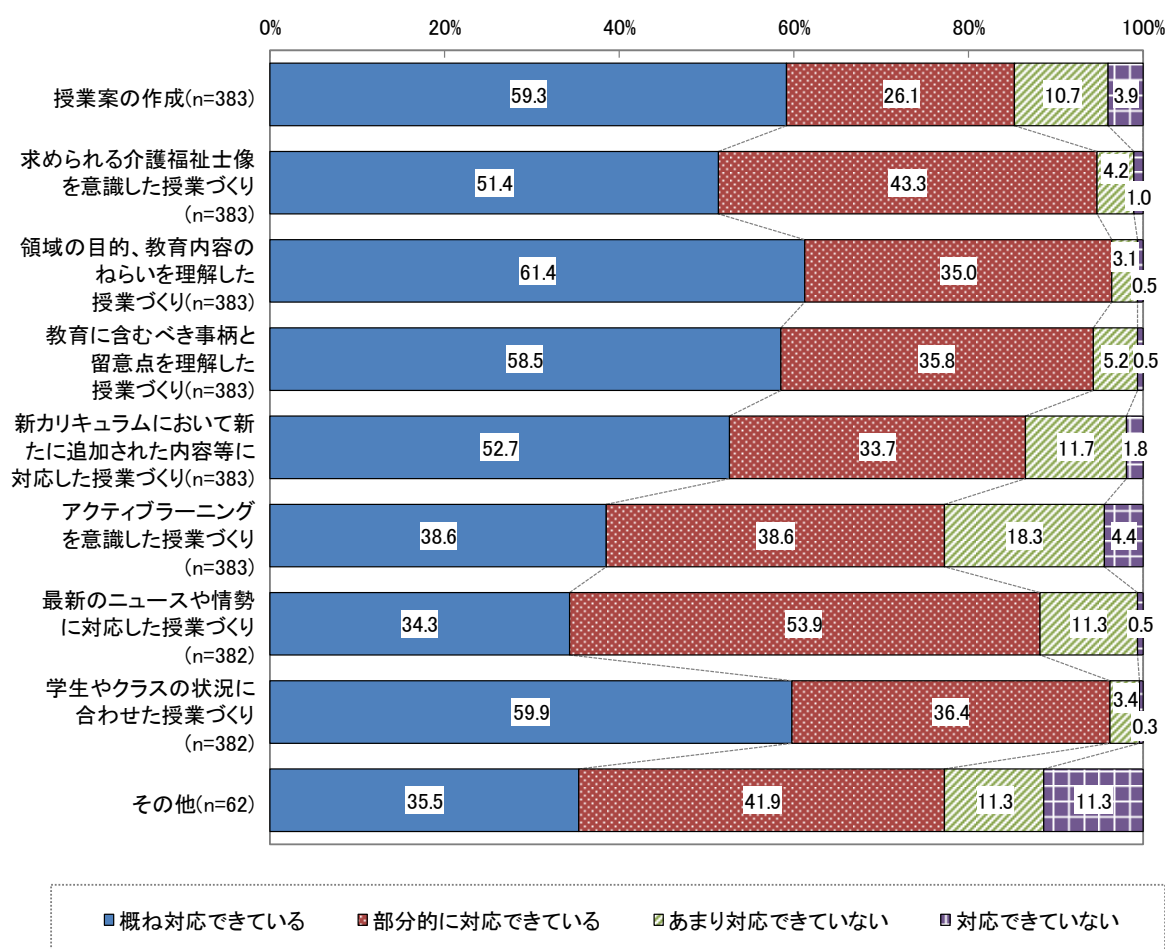


2) 講義に対する取組・課題

① 対応状況(授業を行う上での事前準備にかかる各種取組)

問 6. 授業を行う上での事前準備にかかる各種取組について、対応状況を教えてください。

- ・ <授業案の作成>が 59.3%、<領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり>が 61.4%、<教育に含むべき事柄と留意点を理解した授業づくり>が 58.5%、<学生やクラスの状態に合わせた授業づくり>が 59.9% 「概ね対応できている」と回答した割合が6割前後であり、他の項目に比べて割合が高い傾向にあった。
- ・ 「部分的に対応できている」を含めて見ると、<求められる介護福祉士像を意識した授業づくり>が 94.7% (「概ね対応できている」(51.4%)+「部分的に対応できている」(43.3%))を合算)、<領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり>が 96.4% (「概ね対応できている」(61.4%)+「部分的に対応できている」(35.0%))を合算)、<教育に含むべき事柄と留意点を理解した授業づくり>が 94.3% (「概ね対応できている」(58.5%)+「部分的に対応できている」(35.8%))を合算)、<学生やクラスの状態に合わせた授業づくり>が 96.3% (「概ね対応できている」(59.9%)+「部分的に対応できている」(36.4%))を合算) と9割を超えている。



その他：

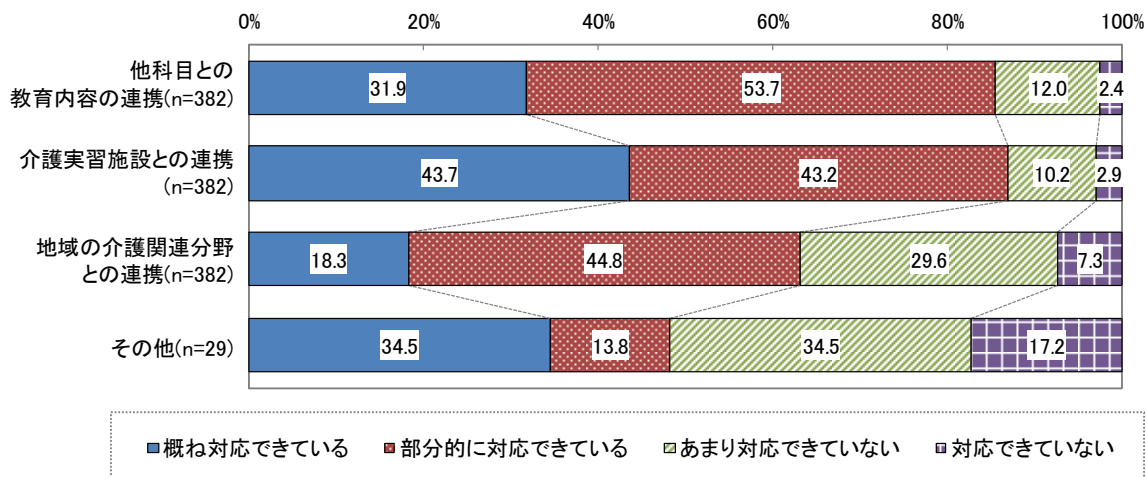
(対応できている) 介護の根拠を踏まえた学びに対する対応、介護以外の国家試験の傾向などの分析、学生の授業評価を踏まえた授業づくり、オンライン授業と対面授業を組み合わせた準備 等

(対応できていない) 準備する時間がない 等

② 対応状況(科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組)

問 7. 学生に複合的な学びを提供するための各種取組について、対応状況を教えてください。

- ・ <介護実習施設との連携>は「概ね対応できている」が 43.7%と 4 割を超えている。
- ・ 「部分的に対応できている」を含めて見ると、<他科目との教育内容の連携>が 85.6%（「概ね対応できている」(31.9%)+「部分的に対応できている」(53.7%)を合算）、<介護実習施設との連携>が 86.9%（「概ね対応できている」(43.7%)+「部分的に対応できている」(43.2%)を合算）と 8 割を超えている。



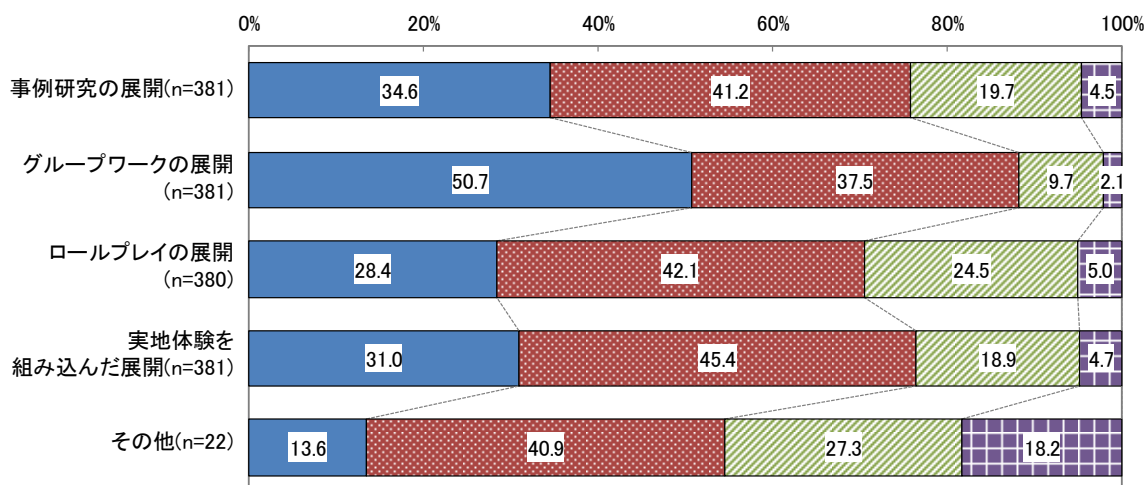
その他：

- (対応できている) 学生が就職した後のサポート、地域における活動、ソーシャルワーク分野との連携、実習指導者・実習先職員との介護実習意義目的の共有 等
- (対応できていない) 何をやってよいかわからない、非常勤講師では対応に限界がある 等

③ 対応状況(各種授業展開方法)

問 8. 各種授業展開方法について、どの程度対応できているか、対応状況を教えてください。

- ・ <グループワークの展開>は「概ね対応できている」が 50.7%と 5 割を超えている。
- ・ 「部分的に対応できている」を含めて見ると、<グループワークの展開>が 88.2%（「概ね対応できている」(50.7%)+「部分的に対応できている」(37.5%)を合算）と 9 割近く、<事例研究の展開>が 75.8%（「概ね対応できている」(34.6%)+「部分的に対応できている」(41.2%)を合算）、<実地体験を組み込んだ展開>が 76.4%（「概ね対応できている」(31.0%)+「部分的に対応できている」(45.4%)を合算）と 8 割近くであった。



■ 概ね対応できている ■ 部分的に対応できている ■ あまり対応できていない ■ 対応できていない

その他：

(対応できている) 中核となる専門職管理業務を組み込んだ展開、非常勤講師との授業内容の共有化・連動性、留学生の言語理解力や学力差による進度の差を鑑みたグループ編成 等

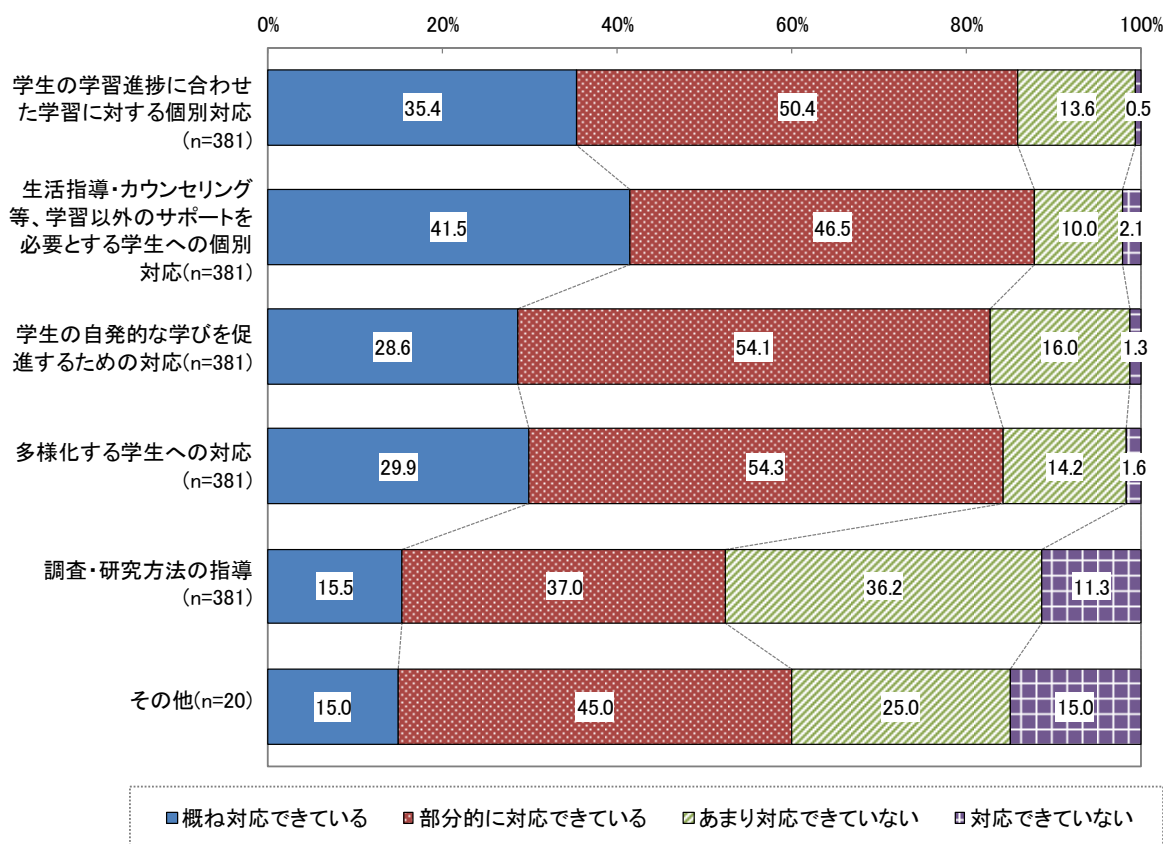
(対応できていない) 何をやってよいかわからない、非常勤講師では対応に限界がある 等

④ 対応状況(学生の指導や評価にかかる各種取組)

問 9. 学生の指導や評価にかかる各種取組について、対応状況を教えてください。

・ <生活指導・カウンセリング等、学習以外のサポートを必要とする学生への個別対応>では「概ね対応できている」が41.5%と4割を超えている。

・ 「部分的に対応できている」を含めて見ると、<学生の学習進捗に合わせた学習に対する個別対応>が85.8%（「概ね対応できている」(35.4%)+「部分的に対応できている」(50.4%)を合算）、<生活指導・カウンセリング等、学習以外のサポートを必要とする学生への個別対応>が88.0%（「概ね対応できている」(41.5%)+「部分的に対応できている」(46.5%)を合算）、<学生の自発的な学びを促進するための対応>が82.7%（「概ね対応できている」(28.6%)+「部分的に対応できている」(54.1%)を合算）、<多様化する学生への対応>が84.2%（「概ね対応できている」(29.9%)+「部分的に対応できている」(54.3%)を合算）と8割を超えている。



その他：

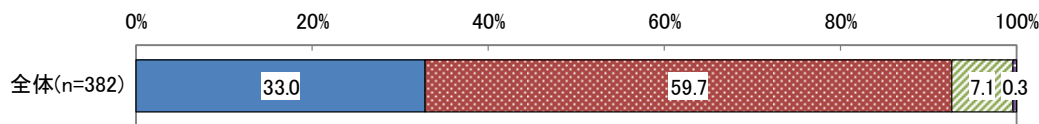
(対応できている) リーダーとなるべき人材であることを意識した指導、学校・本人・保護者を踏まえた指導（保護者の協力が必要な学生が多い）等

(対応できていない) 何をやってよいかわからない、非常勤講師では対応に限界がある 等

⑤ 対応状況(学生の社会人基礎力習得の指導にかかる取組)

問 10. 学生の社会的マナーやコミュニケーション力等、社会人基礎力習得の指導にかかる取組について、対応状況を教えてください。

・ 「概ね対応できている」が 33.0%、「部分的に対応できている」が 59.7%と、「対応できている」と回答した割合は9割超であった。



■ 概ね対応できている ■ 部分的に対応できている □ あまり対応できていない □ 対応できていない

(参考)講義に関する対応状況 点数化

・ 前述(1)～(5)のそれぞれの対応状況について、いずれもすべての項目に回答している372名のデータを、概ね対応できている:3点、部分的に対応できている:2点、あまり対応できていない:1点、対応できていない:0点として各項目の平均点数を算出し、各問に関し複数設問ある項目は、各問に対する平均点数を算出したところ、「授業を行う上での事前準備にかかる各種取組の対応状況(問6)」の点数が最も高く、2.40点であった。

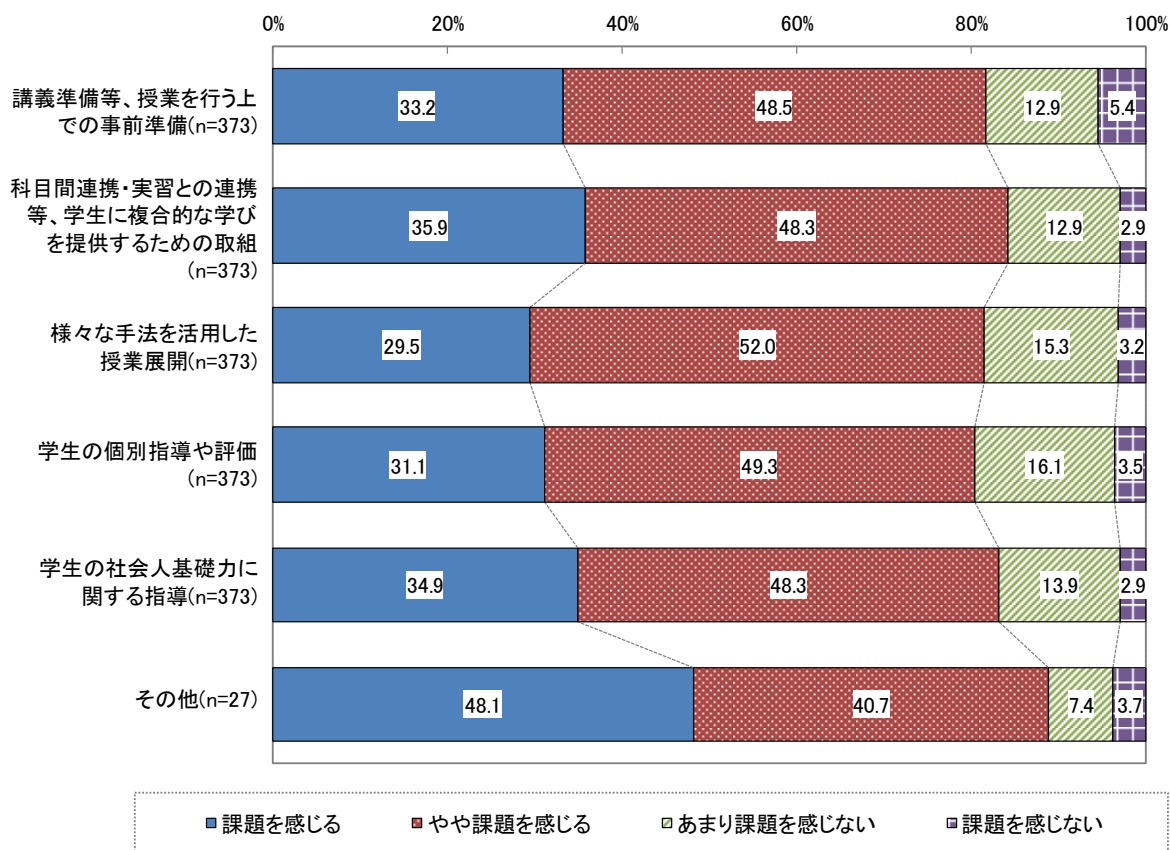
・ なお、回答されたすべての項目において、歪度・尖度を確認し、いずれの項目も歪度2未満、尖度7未満であり、一定基準を満たした。

項目	平均点数
授業を行う上での事前準備にかかる各種取組の対応状況(問6)	2.40点
学生に複合的な学びを提供するための各種取組の対応状況(問7)	2.05点
各種授業展開方法の対応状況(問8)	2.10点
学生の指導や評価にかかる各種取組の対応状況(問9)	2.05点
社会人基礎力習得の指導にかかる取組の対応状況(問10)	2.25点

⑥ 教員としての対応事項についての課題感

問 11-1. あなたが、教員としての対応事項について、どの程度課題を感じているかについて教えてください。

- ・ 「その他」を除くと、いずれの対応事項も「課題を感じる」と回答した割合は3割台であった。
- ・ 「やや課題を感じる」を含めて見ると、いずれの対応事項も8割を超えている。



その他：

(課題を感じる) 外国人留学生への対応と指導方法、学習障害・身体的な障害を有する学生に対しての個別指導や教育方法、中核となる専門職であることを意識させる授業展開指導、読む・書く・伝える・感じとる力 等

(参考)教員としての対応事項についての課題感 点数化

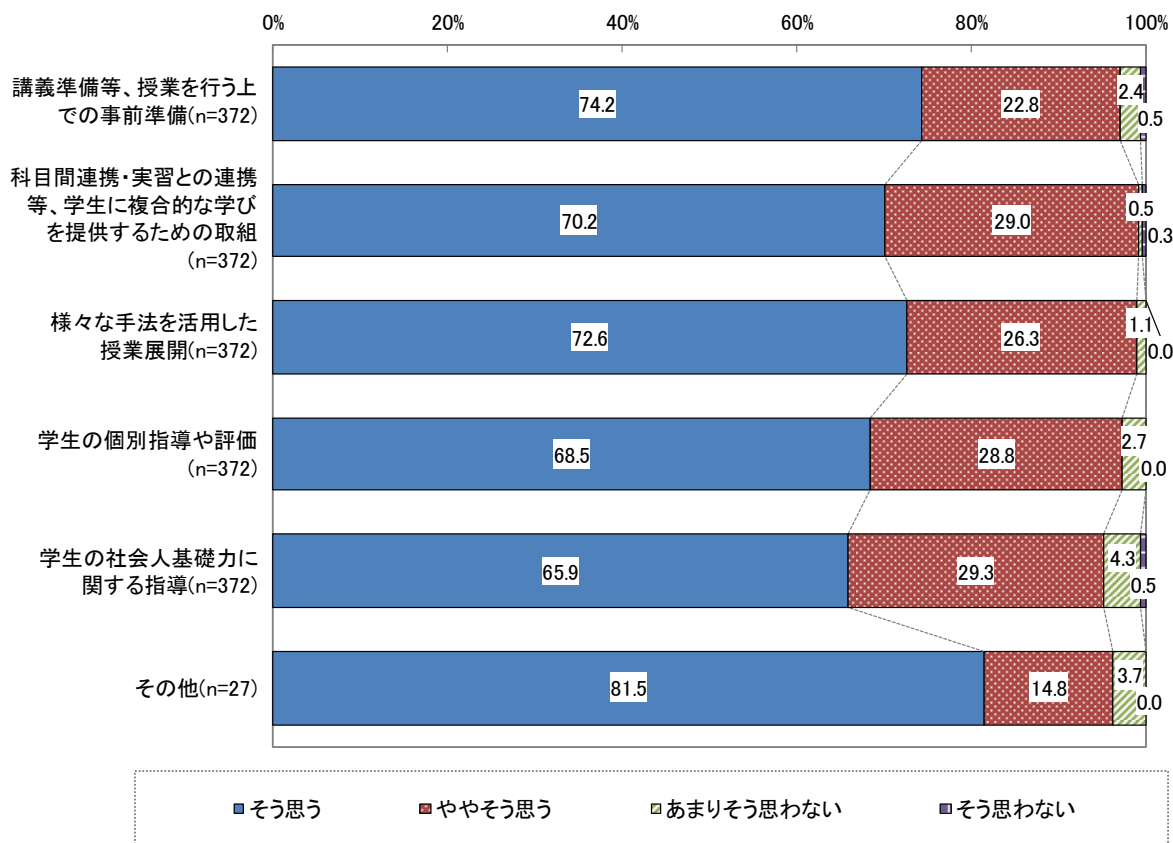
- ・ 前述(6)のそれぞれの課題感について、いずれもすべての項目に回答している372名のデータを、課題を感じない：3点、やや課題を感じる：2点、あまり課題を感じない：1点、課題を感じない：0点として各項目の平均取組点数を算出し、全項目の平均点数を算出したところ、0.88点であった。
- ・ なお、回答されたすべての項目において、歪度・尖度を確認し、いずれの項目も歪度2未満、尖度7未満であり、一定基準を満たした。

項目	平均取組点数
教員としての対応事項についての課題感(問11-1)	0.88点

⑦ 介護福祉士養成を始める前に学習しておくべきと思う事柄

問 11-2. 教員として介護福祉士養成を始める前に、どのような事柄に関する学習(研修受講等)をして
おく必要性を感じるかについて教えてください。

・ <講義準備等、授業を行う上での事前準備>が 74.2%、<科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組>が 70.2%、<様々な手法を活用した授業展開>が 72.6%と「そう思う」と回答した割合が7割を超えている。
・ 「ややそう思う」を含めて見ると、いずれの対応事項も 95%を超えている。



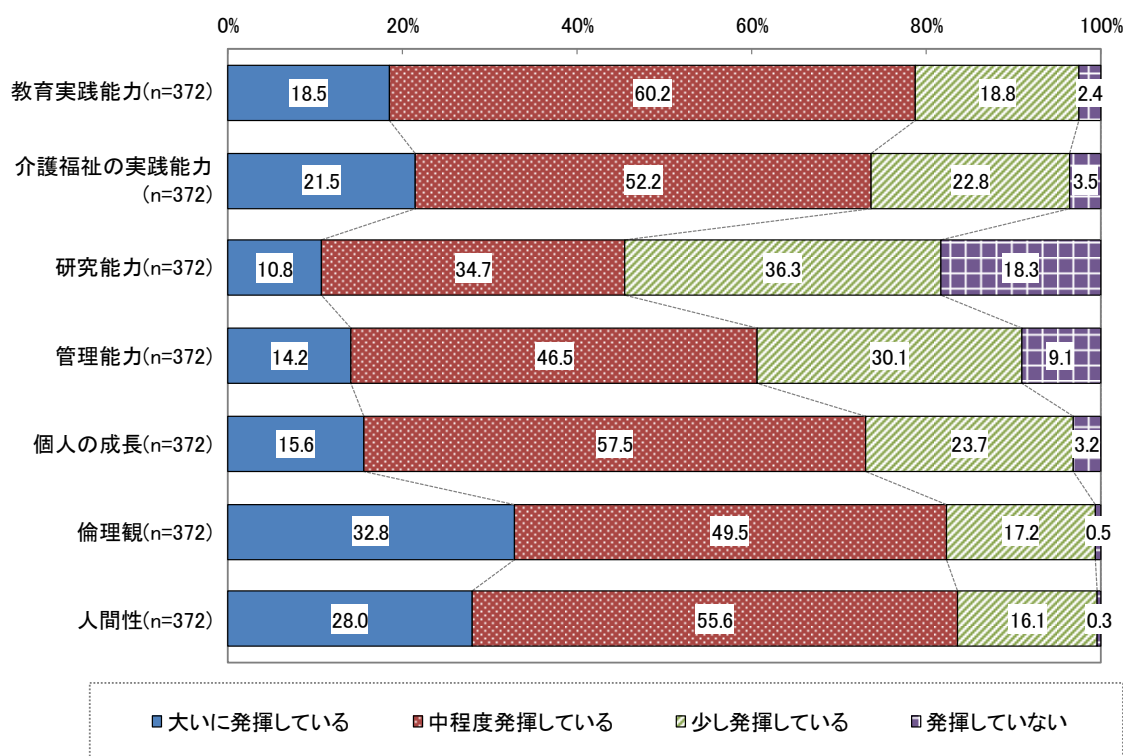
その他：

(そう思う) 読解力、文章力など全般的な国語力、中核となる専門職であることを意識させる授業展開指導方法、学生の多様性・留学生の対応、現場での事例の伝え方、一般教養などの学習基礎力の向上方法、授業態度悪い学生に関する指導のあり方、ケアの根拠について説明できる知識・技術等の学習 等

⑧ 教員としての能力の発揮状況

問 12. あなたが、教員として以下の能力をどの程度発揮できているかについて教えてください。

- ・ 教員としての能力については、米国の Choudhry, U.K (1992)²⁰の先行研究における看護教員を対象に開発された教育能力の構成要素「教育実践能力」「看護実践能力」「研究能力」「管理能力」「個人の成長」を基盤とし、小林ら (2015)²¹が当該項目に、「倫理観」、「人間性」の2つの要素を追加し、計7項目とした教育能力の項目が存在する。本調査では、小林らの教育能力7項目を質問項目として用いることとし、今回は介護教員を対象に調査を行うことから、各質問項目の「看護」という用語を「介護」に置き換えた。
- ・ 集計の結果、＜倫理観＞が32.8%と「大いに発揮している」と回答した割合が3割を超えている。
- ・ 「中程度発揮している」を含めて見ると、＜教育実践能力＞が78.7%（「大いに発揮している」(18.5%)+「中程度発揮している」(60.2%)を合算)、＜倫理観＞が82.3%（「大いに発揮している」(32.8%)+「中程度発揮している」(49.5%)を合算)、＜人間性＞が83.6%（「大いに発揮している」(28.0%)+「中程度発揮している」(55.6%)を合算）と8割前後、発揮しているとした回答があった。



²⁰ Choudhry, U.K(1992), "New Nurse Faculty-Core Competencies for Role Development", Journal of Nursing Education, 31 (6), pp.265-272.

²¹ 小林 睦. 竹尾 恵子. 七田 恵子 (2015), 「看護教員としての能力とその自己評価に関する研究」, 『佐久大学看護研究雑誌』7 巻 1 号, pp.45-54

(参考)教員としての能力の発揮状況 点数化

- ・ 前述（8）のそれぞれの教員能力の発揮状況について、いずれもすべての項目に回答している372名のデータを、大いに発揮している：3点、中程度発揮している：2点、少し発揮している：1点、発揮していない：0点として各項目の平均取組点数を算出し、全項目の平均点数を算出したところ、1.86点であった。
- ・ なお、回答されたすべての項目において、歪度・尖度を確認し、いずれの項目も歪度2未満、尖度7未満であり、一定基準を満たした。

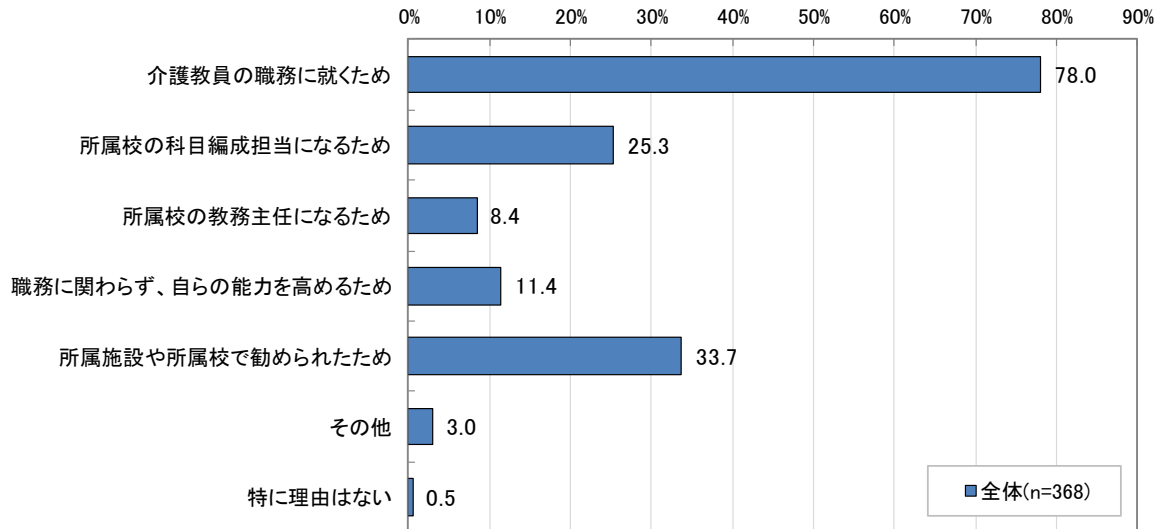
項目	平均取組点数
教員としての能力の発揮状況（問12）	1.86点

3)介護教員講習会について

① 介護教員講習会を受講した理由

問 13. あなたが介護教員講習会を受講した理由について教えてください。(複数選択)

・「介護教員の職務に就くため」が78.0%と最も高く、次いで「所属施設や所属校で勧められたため」が33.7%、「所属校の科目編成担当になるため」が25.3%であった。



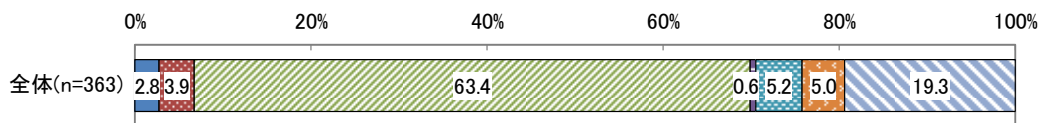
その他：

既に教員だったが制度上受講を求められることとなったため 等

② 受講した介護教員講習会の実施主体

問 14. あなたが受講した介護教員講習会の実施主体を教えてください。

・「公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会」が63.4%と最も高く、次いで「公益社団法人 大阪介護福祉士会」が5.2%、「有限会社 ホットラインワールド」が5.0%であった。



- 公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学 実践・教育センター
- 学校法人 敬心学園職業教育研究開発センター
- 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
- 一般社団法人 たなごころ
- 公益社団法人 大阪介護福祉士会
- 有限会社 ホットラインワールド
- その他

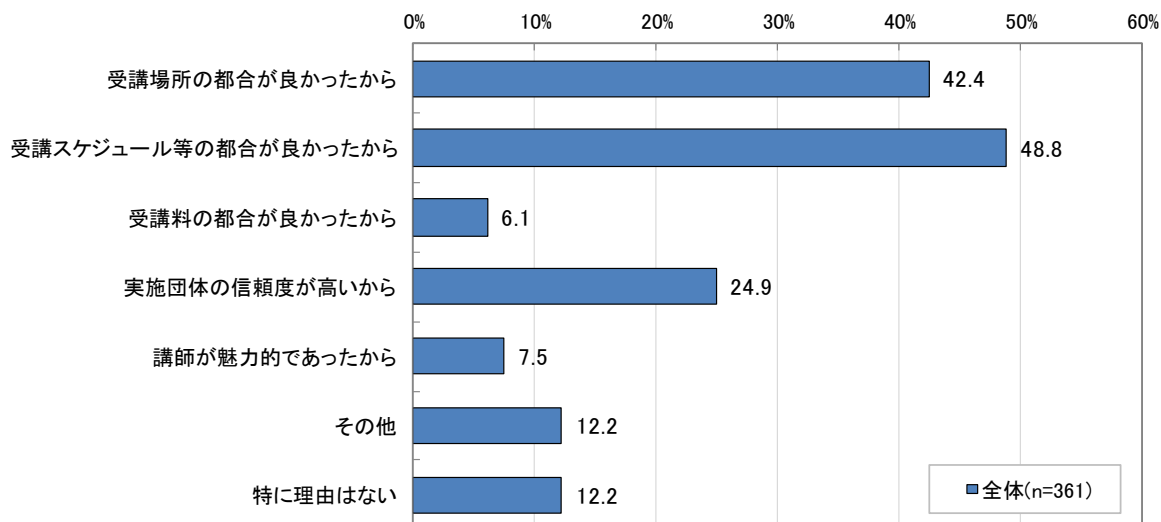
その他：

(福) 全国社会福祉協議会中央福祉学院 等

③ 受講した介護教員講習会の実施主体を選んだ理由

問 15. あなたが受講した介護教員講習会について、複数実施団体があるなか、当該実施団体を選んだ理由を教えてください。(複数選択)

・「受講スケジュール等の都合が良かったから」が48.8%と最も高く、次いで「受講場所の都合が良かったから」が42.4%、「実施団体の信頼度が高いから」が24.9%であった。



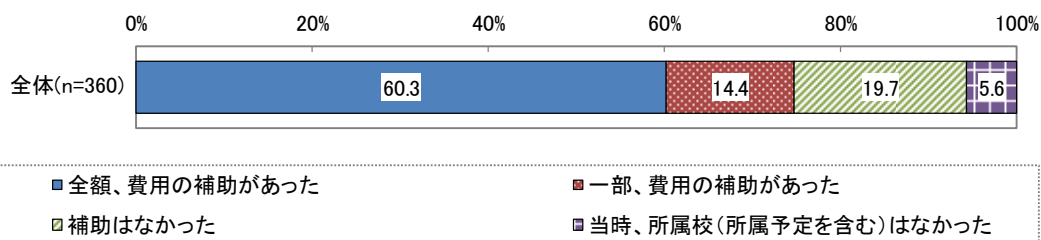
その他：

他団体の開催がなかったため、所属校からその団体を勧められたため、その団体の講習を受けるよう指示があったため 等

④ 講習会の費用負担の補助の有無

問 16. あなたが介護教員講習会を受講した際、当時の所属校、もしくは所属予定の学校から講習会の費用負担の補助があったかについて教えてください。

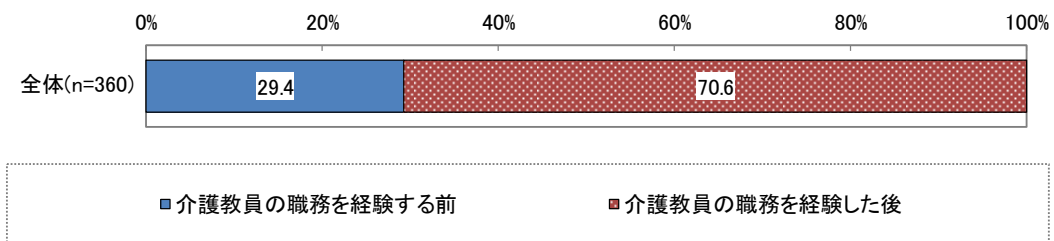
・「全額、費用の補助があった」が60.3%と最も高く、次いで「補助はなかった」が19.7%、「一部、費用の補助があった」が14.4%であった。



⑤ 介護教員講習会を受講した時期

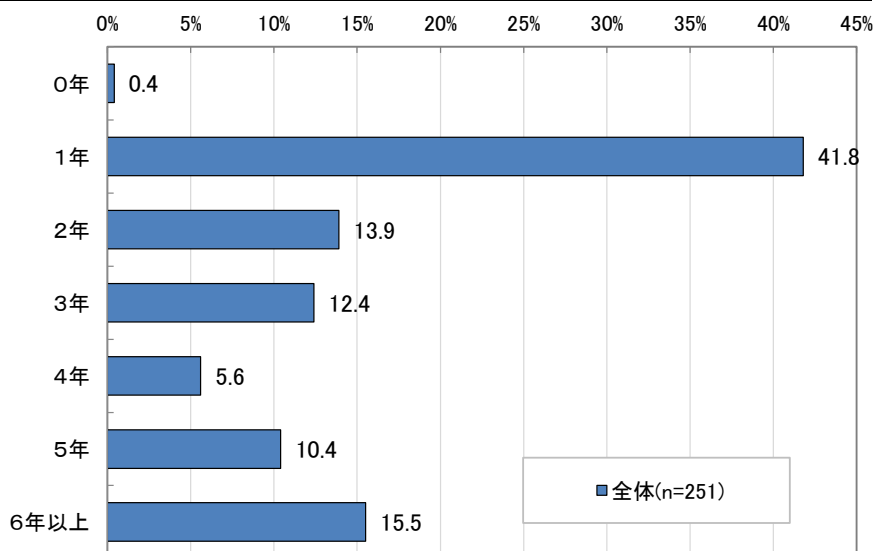
問 17. あなたが介護教員講習会を受講した時期を教えてください。

・「介護教員の職務を経験する前」が 29.4%、「介護教員の職務を経験した後」が 70.6%となっている。



問 17-1. 【問 17 で「2. 介護教員の職務を経験した後」と回答した方】教員経験何年目で介護教員講習会を受講されたか教えてください。(記述式)

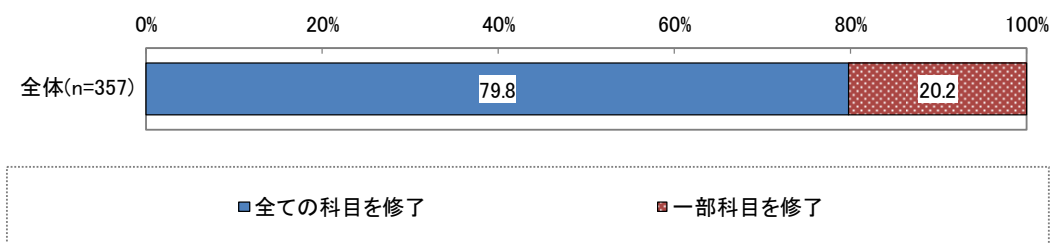
・「1年」が 41.8%と最も高く、次いで「6年以上」が 15.5%、「2年」が 13.9%、「3年」が 12.4%であった。



⑥ 介護教員講習会修了の状況

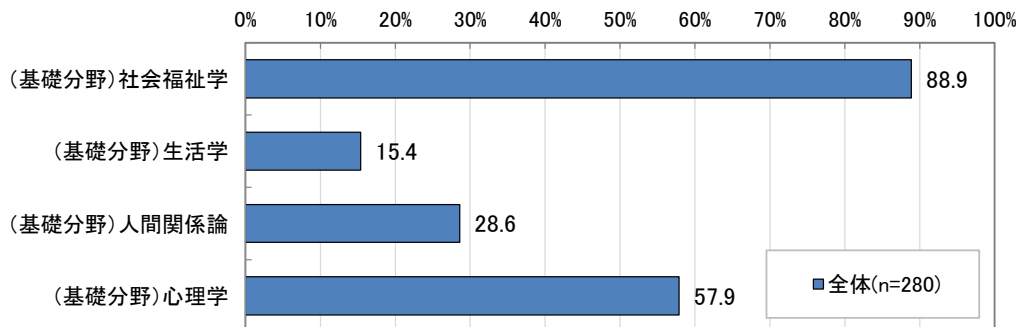
問 18. あなたの介護教員講習会修了の状況を教えてください。

・ 「全ての科目を修了」が 79.8%、「一部科目を修了」が 20.2%となっている。



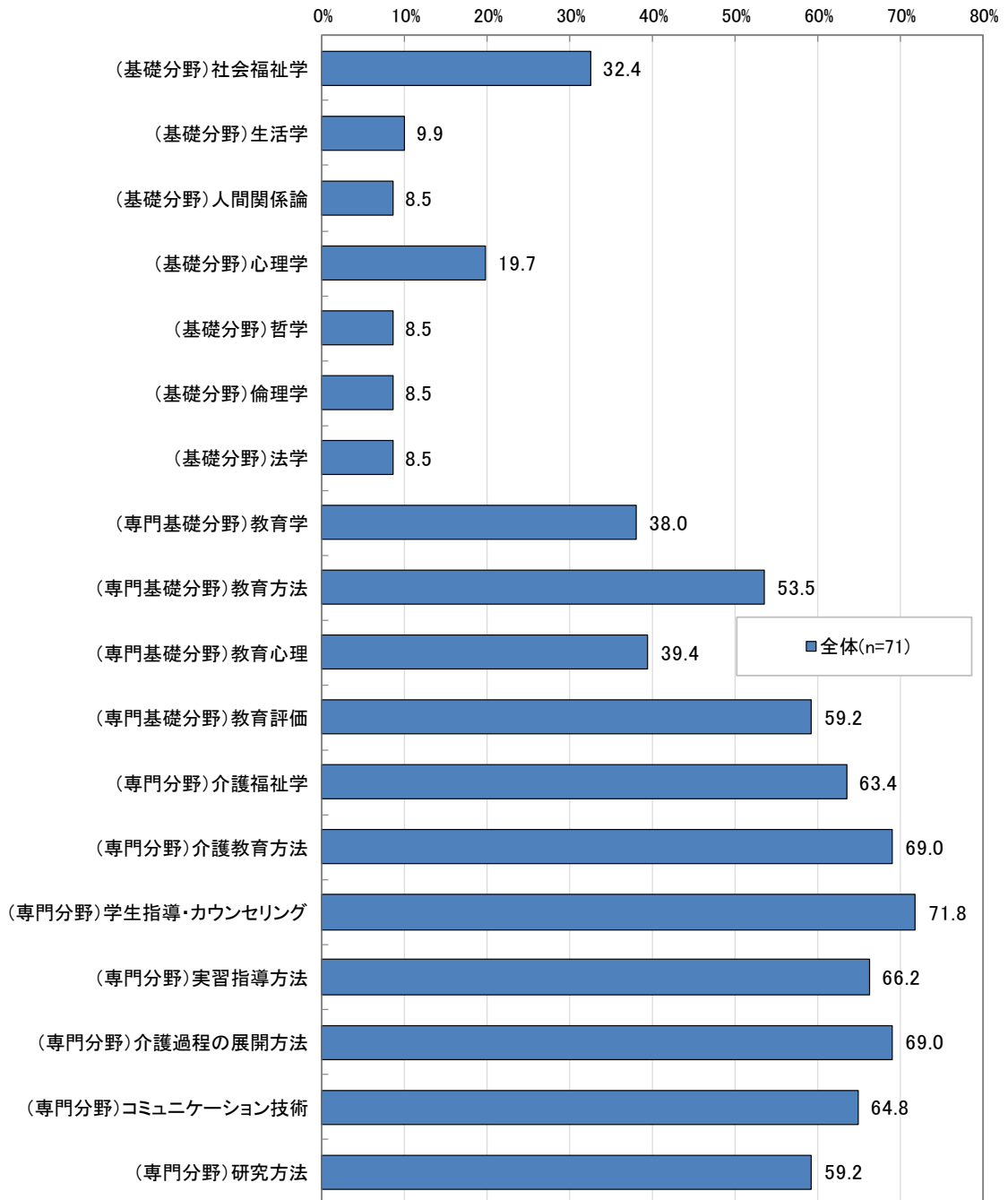
問 18-1. 【問 18 で「1. 全ての科目を修了」と回答した方】あなたの選択された基礎分野の科目(2科目)を教えてください。(2つまで選択)

・ 「(基礎分野) 社会福祉学」が 88.9%と最も高く、次いで「(基礎分野) 心理学」が 57.9%、「(基礎分野) 人間関係論」が 28.6%であった。



問 18-2. 【問 18 で「2. 一部科目を修了」と回答した方】修了された科目を教えてください。(複数選択)

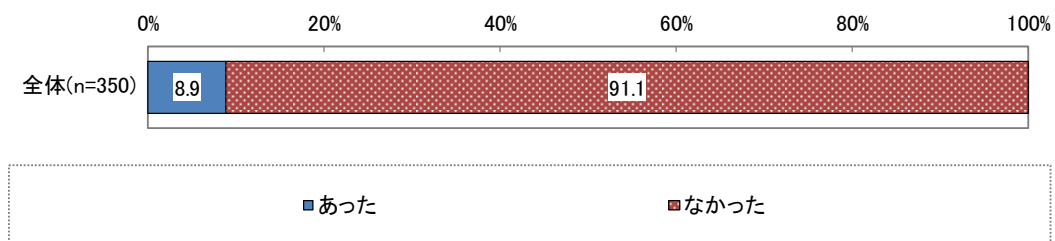
・ 「(専門分野) 学生指導・カウンセリング」が 71.8%と最も高く、次いで「(専門分野) 介護教育方法」「(専門分野) 介護過程の展開方法」が 69.0%、「(専門分野) 実習指導方法」が 66.2%、「(専門分野) コミュニケーション技術」が 64.8%、「(専門分野) 介護福祉学」が 63.4%であった。



⑦ 受講後の学び直しの機会提供の有無

問 19. あなたが受講した介護教員講習会では、受講後、何らかの学び直しの機会の提供(追加の講習等)はありましたか。

・ 「あった」が8.9%、「なかった」が91.1%となっている。



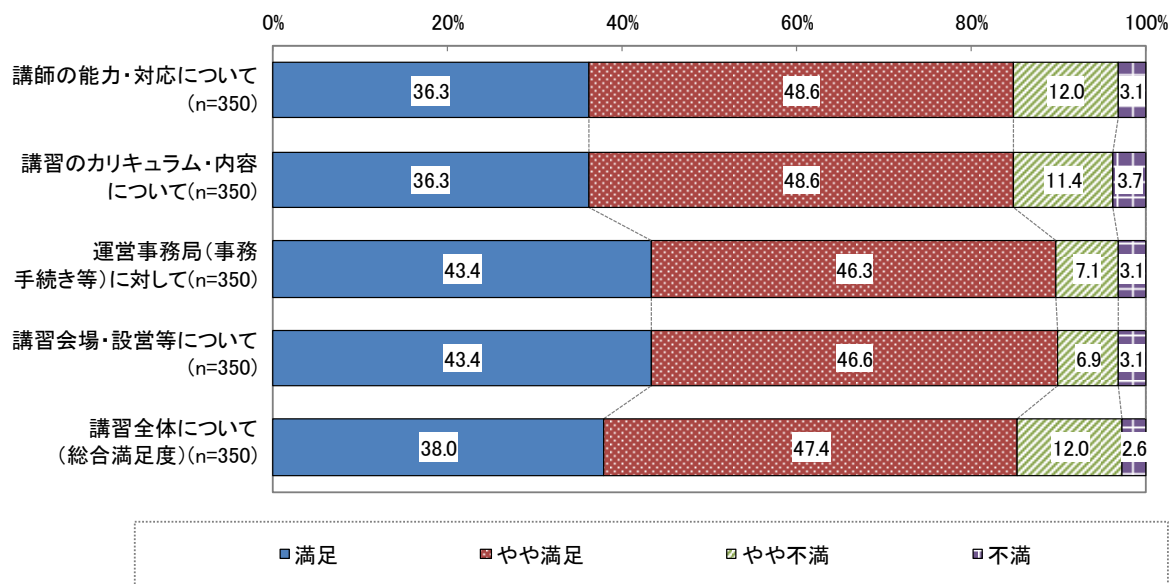
学び直しの機会の具体的内容：

卒後研修が毎年あった、再聴講制度があった、受講した科目の講師から科目についてのフォローアップの案内や学ぶ機会の提供があった、同じく講習会に参加した教員同士が集まり勉強会が開催された 等

⑧ 受講満足度

問 20. あなたが受講した介護教員講習会における受講満足度について、以下の項目ごとに教えてください。

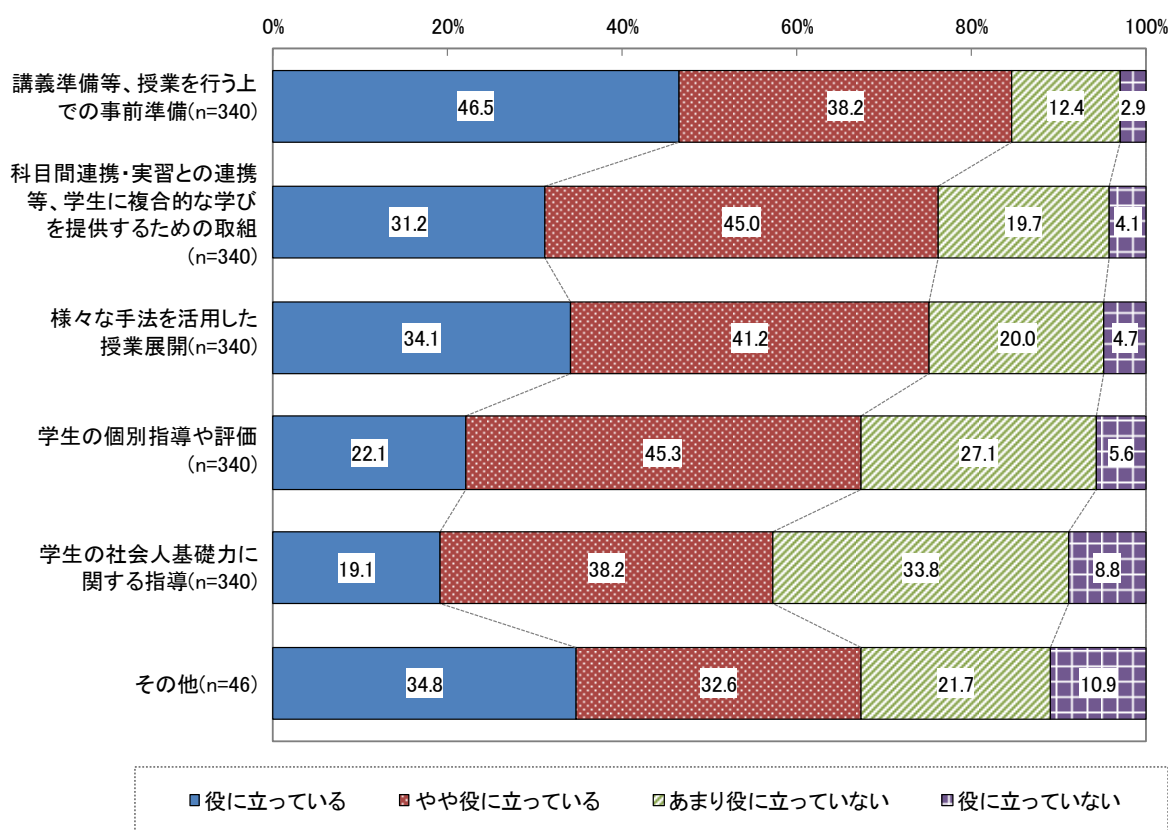
・ <運営事務局(事務手続き等)>と<講習会場・設営等について>は、「満足」が43.4%と4割を超えている。
 ・ 「やや満足」を含めて見ると、いずれの項目も8割を大きく超えている。



⑨ 受講後の役立ち度

問 23. あなたが介護教員講習会で学んだことが、どのような点で役に立っているかについて、それぞれ教えてください。

- ・ <講義準備等、授業を行う上での事前準備>は「役に立っている」が46.5%と4割を超えている。
- ・ 「やや役に立っている」を含めて見ると、<講義準備等、授業を行う上での事前準備>が84.7%（「役に立っている」(46.5%)+「やや役に立っている」(38.2%)を合算）と8割を超えている。
- ・ <科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組>が76.2%（「役に立っている」(31.2%)+「やや役に立っている」(45.0%)を合算）、<様々な手法を活用した授業展開>が75.3%（「役に立っている」(34.1%)+「やや役に立っている」(41.2%)を合算）と7割を超えている。



学び直しの機会の具体的内容：

(役に立っている)

その時一緒に学んだ仲間たちとの繋がり(情報交換ができる) 研究は現在一番役に立っている、養成校としての事務手続き

(役に立っていない)

「どうすると授業が崩壊するのか」の見本のような講習会であった、話にならないほどいい加減であった 等

⑩ 講習を受講して満足に感じた点

問 21. あなたが受講した介護教員講習会について、満足した点があれば、その内容を教えてください。

- ・ 【講師の能力・対応】については、「講師の専門性が高い（ベテランを含む）」が 43 件と最も多かった。
- ・ 【講習のカリキュラム・内容】については、「学習が充実していた／バランスがよかった」が 18 件と最も多かった。
- ・ 【運営事務局（事務手続き等）】については、「対応が丁寧であった」が 26 件と最も多かった。
- ・ 【講習会場・設営等】については、オンライン開催の講習の場合、「移動の必要がない（時間や費用のメリット）」が 11 件と最も多く、現地開催の講習の場合、「施設や環境の評価」が 17 件と最も多かった。
- ・ 【その他】については、「受講生や講師との交流」が 8 件と最も多かった。

【講師の能力・対応】

		回答数
評価点		計 147
	講師の専門性が高い（ベテランを含む）	43
	教え方が丁寧、わかりやすい	21
	現場で役立つ授業（体験談など）	16
	内容がよかった／勉強になった	15
	介護教員の立場で学べた	15
	グループワークやペア学習、アクティブラーニングなどの活用	9
	講師が熱心、講師の人間性	8
	全科目通しての講師陣のレベルの高さや一貫性の高さ	8
	質疑応答の充実	4
	映像や資料の活用、事前準備など教材に関する評価	4
	その他	4
特になし／回答を控える		計 7
	特になし／回答を控える	7

【講習のカリキュラム・内容】

		回答数
評価点		計 63
	学習が充実していた／バランスがよかった	18
	（全般的に）内容がよかった	11
	グループワークやペア学習、アクティブラーニングなどの活用	10
	（一部の）内容がよかった	8
	現場で役立つ	8
	受講のしやすさ（受講スケジュールなど）	4
	テキストなどの評価	3
	その他	1
要望や改善点		計 11
	スケジュールの都合がつかないことがあった	3
	実施会場や講師によって差がある	2
	教育の充実	1
	履修が大変（時間、量）	1
	その他	4
特になし／回答を控える		計 12
	特になし／回答を控える	12

【運営事務局（事務手続き等）】

		回答数
評価点		計 53
	対応が丁寧であった	26
	対応がスムーズであった	15
	具体的な事例の記載	6
	（全般的に）よかった	4
	その他	2
要望や改善点		計 3
	その他	3
特になし／回答を控える		計 20
	特になし／回答を控える	20

【講習会場・設営等】

		回答数
評価点		計 59
	(全般的に) よかった	4
	その他	2
—オンライン開催の場合		
	移動の必要がない(時間や費用のメリット)	11
	(全般的に) よかった	3
	その他	3
—現地開催の場合		
	施設や環境の評価	17
	交通の便がよかった	13
	運営の評価	8
	その他	4
要望や改善点		計 7
—現地開催の場合		
	移動が不便	4
	その他	3
特になし/回答を控える		計 19
	特になし/回答を控える	19

【その他】

		回答数
評価点		計 12
	受講生や講師との交流	8
	職場の協力	2
	その他	2
要望や改善点		計 2
	その他	2
特になし/回答を控える		計 9
	特になし/回答を控える	9

⑪ 講習を受講して不満に感じた点

問 21. あなたが受講した介護教員講習会について、不満な点があれば、その内容を教えてください。

- ・ 【講師の能力・対応】については、「講師と科目のミスマッチ（テキストとの狙いと授業の内容が乖離も含む）」が 15 件と最も多かった。
- ・ 【講習のカリキュラム・内容】については、「カリキュラムの不足や科目間の連動不足・科目名と内容が乖離」が 12 件と最も多かった。
- ・ 【運営事務局（事務手続き等）】については、「レスポンスが遅い」、「手続きが煩雑（確認が困難も含む）」、「テキストや課題図書の購入強要や入手が困難」がそれぞれ 5 件と最も多かった。
- ・ 【講習会場・設営等】については、オンライン開催の講習の場合、「他受講生と直接交流ができない」が 5 件と最も多く、現地開催の講習の場合、「会場へのアクセスが悪い」が 7 件と最も多かった。
- ・ 【その他】については、オンライン開催の講習の場合、「実施スケジュールに課題がある」が 6 件と最も多かった。

【講師の能力・対応】

		回答数
講師の能力・対応について		計 52
	講師と科目のミスマッチ（テキストとのねらいと授業の内容の乖離も含む）	15
	講師の知識や能力不足	12
	テキストを読んでいるだけ	8
	講師としての資質に問題がある（生徒を見下している・欠点のみの指摘など）	5
	講師が持論を展開	4
	講師の現場力の不足	3
	（全般的に）不満足	2
	内容のレベルが低い	2
	内容のレベルが高い	1
その他		計 6
	その他	6
特になし／回答を控える		計 23
	特になし／回答を控える	23

【講習のカリキュラム・内容】

		回答数
講習のカリキュラム・内容について		計 46
	カリキュラムの不足や科目間の連動不足・科目名と内容が乖離	12
	現場で役に立つ技能とは感じられない（活用していない）	9
	講師と科目のミスマッチ（講師が持論を展開・テキストとの狙いと授業の内容が乖離も含む）	7
	受講者の学歴に応じて不要な科目がある	5
	実施スケジュールに課題がある	4
	講師の知識や能力不足	3
	テキストや課題図書を購入強要や入手が困難	3
	準備物などの通知や手配が不十分	3
その他		計 8
	その他	8
特になし／回答を控える		計 20
	特になし／回答を控える	20

【運営事務局（事務手続き等）】

		回答数
講習のカリキュラム・内容について		計 27
	レスポンスが遅い	5
	手続きが煩雑（確認が困難も含む）	5
	テキストや課題図書を購入強要や入手が困難	5
	連絡に不備・雑	4
	当日の運営に課題がある（証明書の発行が遅いなど）	3
	事務局が対応してくれない（組織的に課題を解決してくれない）	3
	受講生の管理を行っていない	2
その他		計 4
	その他	4
特になし／回答を控える		計 28
	特になし／回答を控える	28

【講習会場・設営等】

		回答数
要望や改善点		計 22
—現地開催の場合		
	会場へのアクセスが悪い	7
	泊まり込みでの長期間開催	3
	会場が狭い・施設が悪い	2
	その他	1
—オンライン開催の場合		
	他受講生と直接交流ができない	5
	システム面の課題	2
	その他	2
特になし／回答を控える		計 26
	特になし／回答を控える	26

【その他】

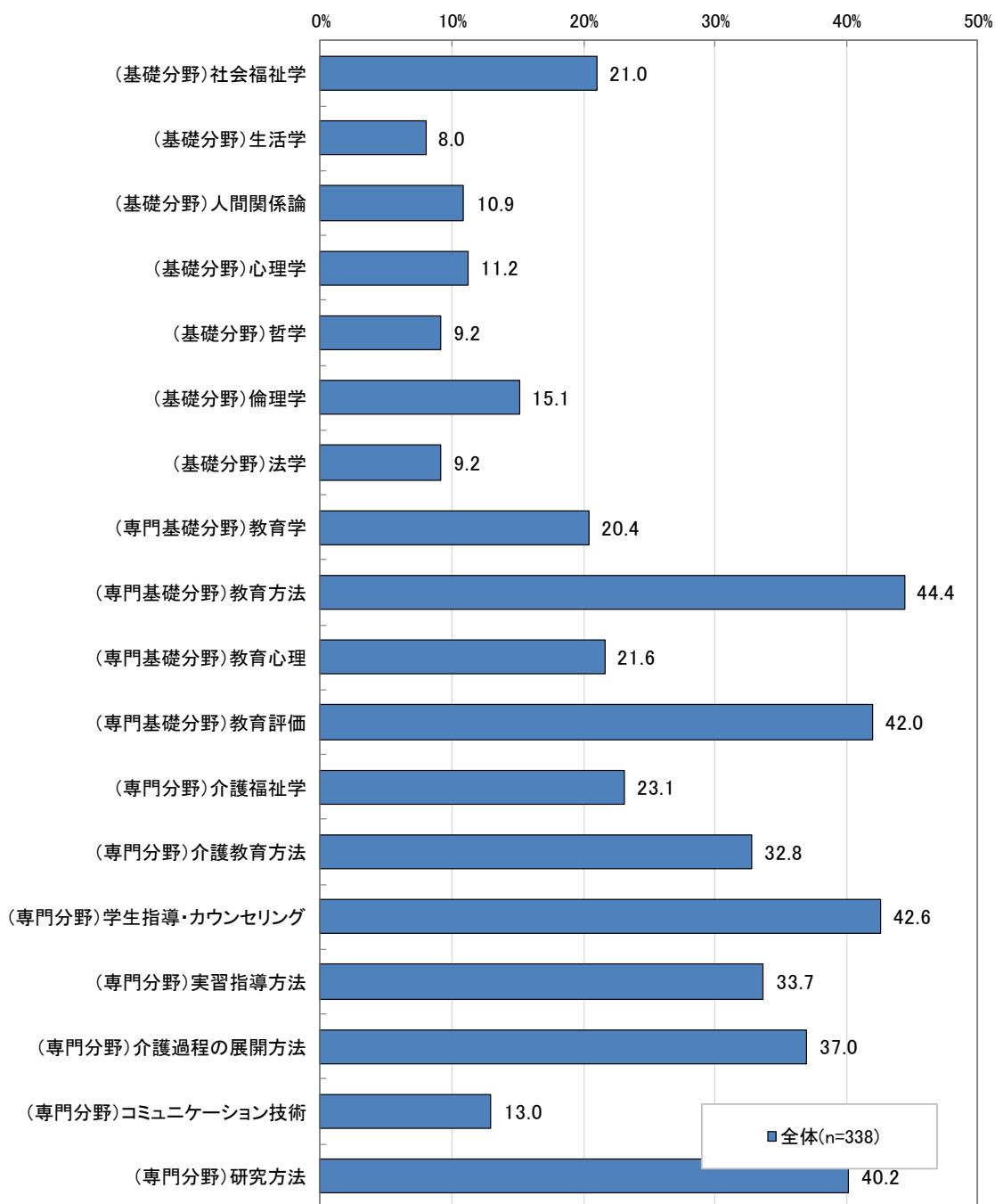
		回答数
全般		計 8
	講習会の質が悪い	3
	研修内容への提言	3
	受講者の学歴に応じて不要な科目がある	2
オンライン開催の場合		計 10
	実施スケジュールに課題がある	6
	受講生の受講態度が悪い／講師や事務局から指導がされない	4
特になし／回答を控える		計 11
	特になし／回答を控える	11

4) 教員としての自己研鑽にかかる取組・課題

① 学び直しの必要性を感じている科目

問 24. 今後、介護福祉士養成をしていくにあたり、介護教員講習会の各科目で学び直しの必要性を感じている科目を教えてください。(複数選択)

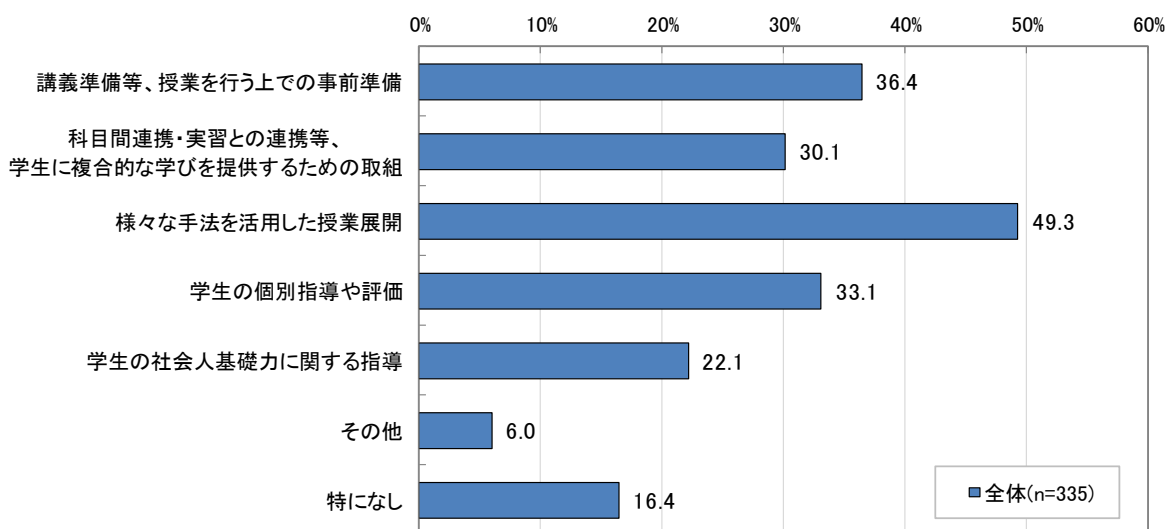
・ 「(専門基礎分野) 教育方法」が44.4%と最も高く、次いで「(専門分野) 学生指導・カウンセリング」が42.6%、「(専門基礎分野) 教育評価」が42.0%、「(専門分野) 研究方法」が40.2%であった。



② 自己研鑽が必要だと感じている事柄

問 25. 介護福祉士養成をしていくにあたり、現在、自己研鑽が必要だと感じている事柄を教えてください。(複数選択)

- ・ 全体では、「様々な手法を活用した授業展開」が49.3%と最も高く、次いで「講義準備等、授業を行う上での事前準備」が36.4%、「学生の個別指導や評価」が33.1%であった。また「特になし」(16.4%)となっている。
- ・ 【講義準備等、授業を行う上での事前準備】については、「新たな知見や知識の吸収」が22件と最も多かった。
- ・ 【科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組】については、「他職種との連携（実習指導者との連携も含む）」が17件と最も多かった。
- ・ 【様々な手法を活用した授業展開】については、「オンライン授業の準備（ICTの活用）」が33件と最も多かった。
- ・ 【学生の個別指導や評価】については、「多様な学生への配慮（疾患、障害など）」が32件と最も多かった。
- ・ 【学生の社会人基礎力に関する指導】については、「社会人基礎力が低い方への配慮した教育」が25件と最も多かった。
- ・ 【その他】については、「新しい知識の習得や学びなおし」が7件と最も多かった。



【講義準備等、授業を行う上での事前準備】

		回答数
具体的な授業準備について		計 76
	新たな知見や知識の吸収	22
	教材の準備（資料作成等）	16
	学生の個別性（性格/特徴/国籍等）を生かせるような授業準備	15
	シラバスの作成／授業計画	13
	アクティブラーニングを活用した授業を行うための準備	6
	オンラインを活用した授業準備	4
授業準備に関する課題		計 6
	時間がなく対応できない	6
その他		計 8
	その他	8
特になし		計 1
	特になし	1

【科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組】

		回答数
連携について		計 52
	他職種との連携（実習指導者との連携も含む）	17
	他科目との連携	16
	他教員との連携	11
	関連科目の理解	8
その他		計 4
	その他	4
特になし		計 1
	特になし	1

【様々な手法を活用した授業展開】

		回答数
具体的な授業展開について		計 102
	オンライン授業の準備（ICTの活用）	33
	アクティブラーニングを活用した授業展開	25
	学生の個別性（性格、特徴、国籍等）を生かせるような授業展開	19
	視覚的な教材を活用した授業展開	9
	地域等外部資源を活用した授業展開	6
	介護現場で利用されるICT（介護ロボット、LIFE等）も鑑みた授業展開	6
	補講や演習と連動させた授業展開	4
授業展開に関する課題		計 16
	新しい知識の習得や学びなおし	16
その他		計 2
	その他	2
特になし		計 1
	特になし	1

【学生の個別指導や評価】

		回答数
具体的な個別指導や評価について		計 72
	多様な学生への配慮（疾患、障害など）	32
	学生の評価	20
	留学生への配慮	13
	基礎学力が低い学生への配慮	7
個別指導や評価に関する課題		計 3
	指導時間の確保	3
その他		計 3
	その他	3
特になし		計 1
	特になし	1

【学生の社会人基礎力に関する指導】

		回答数
具体的な指導について		計 34
	社会人基礎力が低い方への配慮した教育	25
	学生の評価	6
	留学生への配慮	3
指導に関する課題		計 5
	社会人基礎力指導に関する他教員との連携	5
その他		計 5
	その他	5
特になし		計 1
	特になし	1

【その他】

		回答数
課題について		計 14
	新しい知識の習得や学びなおし	7
	留学生への配慮	5
	時間の確保	2
その他		計 7
	その他	7

③ 介護教員講習会の在り方について

問 26. 介護教員講習会の在り方について、自由にご意見をお願いします。

・ 介護教員講習会の在り方については、要望の意見が多く、「資格の更新制やフォローアップ研修の要望」が 30 件と最も多かった。

【介護教員講習会の在り方】

		回答数
介護教員講習会に対する要望について		計 204
	資格の更新制やフォローアップ研修の要望	30
	資格取得の費用、時期、時間・場所等の配慮の要望	22
	受講者の背景（学歴・出身など）に対する配慮の要望	22
	カリキュラムの見直し要望	19
	講師の要件の厳密化・質の向上に関する要望	16
	受講生や講師との更なる交流や関係性の構築に関する要望	14
	介護教員講習会の今後の継続開催要望	13
	オンライン開催の継続要望	13
	実施団体の質の標準化の要望	13
	講習そのものの標準化・質の向上	11
	研修の簡素化・単位制等の導入要望	10
	対面開催への要望	8
	より実践的な内容への講義内容変更要望	7
	留学生対応に関する講習内容追加要望	6
その他		計 9
	その他	9
特になし		計 7
	特になし	7

2) 講習概要-事務局運営にかかる分類

講習概要-事務局運営にかかる分類については、「受講期間」、「開催場所、開催方法、実施回数」、「受講料」、「講師要件」等、講習を運営するうえで事業者がどのような運営体制をとっているかについて概要を理解できるよう、各項目に分けて分類している。内容詳細は、本報告書別添「①-2.講習概要（事務局運営にかかる分類）」を参照のこと。なお、全事業者から調査回答をいただいているわけではないため、部分的に不明箇所あり、当該箇所は色付空欄としている。

図表：講習概要-事務局運営にかかる分類

項目	厚生労働省 実施要項	実施者A	実施者B	実施者C	実施者D	実施者E	実施者F
受講期間	-	11か月間	8か月間	7か月間	5.5か月間	6か月間	6か月間
開催場所、開催方法、実施回数	-	1回 オンライン開催	1回 オンライン開催	1回 オンライン開催	3回 オンライン開催	1回 オンライン開催	1回 対面開催
受講料	-	受講料：287,470円 施設分：60,000円 専門基礎分：- 専門分：-	受講料：300,000円 施設分：60,000円 専門基礎分：90,000円 専門分：150,000円	受講料：320,000円 施設分：64,000円 専門基礎分：96,000円 専門分：160,000円	受講料：399,800円 施設分：79,960円 専門基礎分：121,000円 専門分：200,800円	受講料：220,592円 施設分：40,000円 専門基礎分：60,000円 専門分：100,592円 F&S料：20,592円	受講料：380,000円 施設分：76,000円 専門基礎分：114,000円 専門分：190,000円
研修効果の活用方法	-	当該国での評価報告書および意見交換会による研修者と意見交換し、対話プログラムや講師見直しなどの検討の機会としている。	次年度の介護教員委員会において、各科目の教育・受講者アンケート結果を送付し、講習内容をよりよいものにしていくと参考としている。また、事務局内でも研修、講習会の実施と今後の改善方針について検討している。	受講者満足度や受講者自身の振り返り、事務局との連絡等、講師定定や講義内容への反映	意見を取り入れ講習会の質の向上に努める		本人に修了証と共に、評価表を提示し本人で評価プログラムが行われている。会として、評価を基にその年度の受講生のべ率を確認している。
修了後の受講者へのフォローアップ	-	フォローアップの研修を実施しているほか、研究発表会への参加による継続的な学習の機会を提供している。	本講習会前南南メールマガジンを配信し、受講科目の理解促進や質疑など、使用し、講義内容をメールマガジンとして受講者に提供している。本講習会の最終日に、就職ガイダンスを実施、就職している卒業生も紹介を行っている。				研修終了の教員フォローアップ研修の実施や受講後の受講生への知識の再確認を行っている。また研修終了後に研修のフォローアップとして介護教員委員会に参加してもらい、スキルアップとして講習を通して再確認の場を設けている。
講師人数 (R4)	-	28名+運営担当者	12名	13名	1名	1名	14名
講師要件	<p>社会福祉士専門教育機関の教員講習会及び介護教員講習会の実施について（平成20年11月1日付厚労省111102号）第2条の第5号、講習会（講習員）として下記に定められている要件に準じている。</p> <p>(1) 講習会の講師は、次のいずれかに該当する者であることが望ましいこと。</p> <p>ア 学校教育法に基づき大学、大学院又は短期大学を卒業し、専攻、専修又は助教として5年以上の教職を有する者</p> <p>イ 介護福祉士養成施設又は介護福祉士学校において5年以上の教職を有する者</p>	<p>講師要件は定めていないが、当該講習の講師の選定方針は、最新の知見と能力、実践力、研修者、関心、他、当該科目の目的に合った講義・演習を実施できる者が選ばれる。</p> <p>修了後に専門職として地域で活躍する現職者を希望しているため、当該科目の目的に合った最新の知見と能力を有する者を選定している。</p> <p>研修の進捗や理解度などを把握し、必要に応じて個別の指導やサポートを行う。</p>	<p>厚生労働省の実施要項通り</p>	<p>厚生労働省の実施要項通り</p> <p>・ 国の活動に代わり、講習会であること ・ 当該科目に關して専門的な見解があること ・ オンラインでの開催に対応できること ・ 介護福祉士養成施設での教育を行っている経験者であることが望ましい ・ 専門分野の講師は、養成施設での当該科目の学習経験が5年以上ある。同じ養成施設以上の学位があること</p>	<p>厚生労働省の実施要項通り</p>	<p>厚生労働省の実施要項通り</p>	<p>厚生労働省の実施要項通り</p>

3) 科目別講習カリキュラム体系-講習時間数

科目別講習カリキュラム体系（時間数）については、講習の各科目において、どの程度の時間数が設定されて運営されているかについて概要を理解できるよう、科目別に分類している。内容詳細は、本報告書別添「①-2.講習概要（事務局運営にかかる分類）」を参照のこと。

図表：科目別講習カリキュラム体系-講習時間数

領域	科目名	厚生労働省 実施要項	実施者A	実施者B	実施者C	実施者D	実施者E	実施者F
基礎分野 ※このうち2科目以上を実施	社会福祉学	基礎科目の中からいずれか2科目 30h×2 = 60h						
	生活学							
	人間関係論			30h		30h	30h	
	心理学							
	哲学							
	倫理学			40h				
	法学							30h
その他		独自科目 - 必修 2h 独自科目 - 選択 18h						
専門基礎分野	教育学	4科目全てで90h	30h	30h	30h	30h	30h	30h
	教育方法		44h	30h	15h	15h	15h	15h
	教育心理		30h	15h	30h	30h	30h	30h
	教育評価		16h	15h	15h	15h	15h	15h
	その他							
専門分野	介護福祉学	30h	40h	30h	30h	30h	30h	30h
	介護教育方法	30h	40h	36h	30h	30h	30h	30h
	学生指導・カウンセリング	15h	20h	15h	15h	15h	15h	15h
	実習指導方法	15h	20h	15h	15h	15h	15h	15h
	介護過程の展開方法	15h	20h	15h	15h	15h	15h	15h
	コミュニケーション技術	15h	20h	15h	15h	15h	15h	15h
	研究方法	30h	40h	30h	30h	30h	30h	30h
	その他							
	計	300h	402h	306h	300h	300h	300h	300h

IV. 調査結果に関する検討委員会意見

本章では、Ⅱ章「教員調査結果」で示された事業者における講習会実施方法等についての実態、Ⅲ章「介護教員講習会実施者調査結果」で示された講習会受講者である教員の課題等の実態を踏まえ、あるべき講習会に関する検討委員会委員（Ⅰ章—「2. 調査研究の方法」—「1）検討委員会の設置・開催」参照）意見を掲載している。

現状、「社会福祉士実習演習担当教員講習会及び介護教員講習会の実施について（社援発第 0306 第 26 号）」（以下、実施要領という）で講習会実施の枠組みは示されているものの、検討委員会では、教員の質を担保するため、各事業者による差異を解消し、講習会の質の均てん化を図る必要性があることが指摘された。また、今回の調査結果をもとに、講習会の実施方法について、更に検討を進めていく必要性が示唆された。

なお、各種調査結果を踏まえた意見に関しては、該当の調査結果ページを記載している。（例：[P●]）

1. 介護教員講習会全般に関する意見

1) 新設科目について

○「その他」科目として、教育に関する独自科目を追加する等、各事業者に裁量権を認めるのも良いのではないかと。

2) 各講習科目における指導内容に関する規定について

○現行の実施要領では、時間数の規定はある一方で、各科目における指導内容が明確になっていない。最低限、介護教員講習会で扱う内容も規定することで、本講習会の質を底上げする必要があるのではないかと。

- ・ どのような規定にするかは、別途、介護の教育現場の課題を議論したうえで介護教員講習会に必要な内容を検討することが必要である。教員の未習事項を重点的に扱うか、共通基盤として扱うかといった課題もある。
- ・ 現行の介護教員講習会では受講者の就業年数が様々である [P27] ことから、受講者の多様性や時代の変化などに適合したプログラムを作成する必要があるのではないかと。
- ・ 教員においては、アクティブラーニングに課題がある [P16,P41] ほか、オンライン授業の展開について課題があることがうかがえる [P41] が、これらは文部科学省が推奨している事項である。このため、介護教員講習会でも学ぶことができることが望ましいのではないかと。
- ・ 教員においては、科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組に関して課題があることがうかがえる [P17] が、科目間連携を行うためにどのような取り組みが必要なのかを検討する必要がある。介護教員講習会科目の専門基礎分野「教育方法」にて、こういった事柄に関する項目立てがあると、介護福祉士のカリキュラムがさらに活きるのではないかと。
- ・ 教員においては、多様化する学生への対応に課題があることがうかがえる [P19,P41] が、専門基礎分野「教育学」、「教育方法」、「教育心理」、もしくは専門分野「介護教育方法」、「学生指導・カウンセリング」等の科目において、様々な背景のある学生への指導方法に関する講義内容を含めると良いのではないかと。

3) 各科目の受講順序の規定について

○介護教員講習会の各科目の受講順序は重要である。「教育・教師とは何か」といった教育者として必要事柄を学んだうえで、指導の方法論等に関する専門的な分野を学べるとよいのではないかと。

○受講順序に関しては、講師都合ではなく、受講者の理解のしやすさを優先するべきではないかと。

4) 介護教員講習会に関する質の均てん化について

○様々な事業者の介護教員講習会を受講したが、各団体の講習の質の差が大きく、講習会の均質性に課題があるのではないか。

- ・ 前述「② 各講習科目における指導内容に関する一定の規定の必要性」の通り、各科目に含むべき事項等が明記されていると、授業内容を決定しやすくなるのではないか。ひいては、事業者ごとの講習内容が均一に近づくのではないか。
- ・ 科目間の連携や順序性等が理解できるようなカリキュラムツリーを作成するのがよいのではないか。教育に含むべき事項や倫理綱領、求められる介護福祉士像等を網羅できる介護教員講習会にしていくことが望ましい。

5) 介護教員講習会における実施内容の明示について

○それぞれの事業者が、実施状況を詳細に公開することが必要である。

2. 介護教員講習会の受講者に関する意見

1) 受講者要件の設定について

○現行の介護教員講習会では、事業者によって受講要件や受講期間が様々であり、かつ参加者についても受講者における現場の参加者の占める割合も様々である [P44-45]。受講者の質によっても講習必要時間や指導方法が変わってくるのが想定され、受講者要件は一定程度定めてもよいのではないか。

2) 受講定員要件について

○既存の講習では、1回あたり 100 名の講習を実施している事業者も見られる [P44] が、講義1回あたりの適切な定員を検討する必要があるのではないか。

3) 修了要件の標準化・明確化について

- 受講率だけでなく、論文等の提出物を修了要件にしている事業者も見られる [P44] が、評価者が1名のみである場合、評価の公平性は担保されるのか。
- 同一の介護教員講習会であるにもかかわらず、事業者によって修了要件が異なる [P44] ため、何らかの一定の修了要件の規定が必要ではないか。
- 受講者の不満として、他の受講生の受講態度に関する事柄が挙げられている [P37] が、オンライン講義における受講態度の評価方法について、根拠ある評価をすることは難しいことが考えられる。一定の評価基準が必要ではないか。

4) 講習免除要件について

○免除要件については、現行では1事業者を除きすべて「厚生労働省の通り」となっている [P44] が、受講者からは受講者の背景に対する配慮の要望が挙げられている [P43]。事業者として、設定している講習免除要件をより明確に示すことが必要ではないか。

- ・ 修士号・博士号を持つ受講生に関して一定程度の免除要件を設けることも想定されるが、介護教員講習会科目の専門分野「研究方法」に関しては、大学院での研究者としての研究と、現場での実務者としての研究は異なるため、留意する必要がある。科目「研究方法」は、受講者によるケーススタディ、介護過程の研究等を通し、自身の現場での事象を見つめ直すことを目的とした科目である。このため、研究方法が専門分野の科目であることに大きな意味がある。一方、当該内容を受講者に対しより明確に示すため、「研究方法」ではなく「介護実践研究法」等の名称変更を行うことも一案である。
- ・ 教員にとって、実務経験も重要である。実務から培った実践と、研究的視点、2つの視点を補完することのできる仕組みも必要ではないか。

3. 事業者の運営に関する意見

1) 介護教員講習会の開催方法について

○オンライン開催形式の介護教員講習会では、受講者との交流ができない、他一部の受講生の態度が悪いものの講師が十分な指摘がない等の不満が受講生から挙げられている [P37] ほか、実際に養成施設で教授する（教壇に立つ）際のイメージが持ちにくくなるといった意見も挙げられている。一方、受講の効率性の観点から、オンラインで実施したほうが良いと思われる科目もあるため、対面開催か、オンライン開催かといった開催方法についても検討が必要ではないか。

- ・ オンライン形式の介護教員講習会では、受講者に講師の熱量を伝える、受講者の状況の把握を把握する等といった事柄が困難であることが想定される。このため、オンライン講習のデメリットを受講者に正確に伝達する必要があるほか、オンライン受講者の上限を設定する、ファシリテーターを設定して対応する等の対応が重要である。

2) 受講料の均てん化について

○現行の介護教員講習会では、事業者によって受講料が様々である [P45]。受講費用を全額自己負担する受講者も一定程度存在する [P26] ことから、受講料は、受講者の事業者選択に影響を及ぼす項目であることが想定される。事業者によってどこまでの違いがあってよいかについては検討が必要である。

3) 介護教員講習会の受講後フォローアップについて

○約9割の受講者において、介護教員講習会受講後の学び直しの機会提供が「なかった」と回答されている [P30]。教員全体の指導能力の向上のため、介護教員講習会を受講した教員に関しても、一定期間の実務を経た後に、積極的に学びなおしの機会が提供されるべきではないか。

○介護教員講習会受講済である旨の資格を更新制にするかも課題である。何を基準に更新制とするかは検討が必要である。また、更新制とするか、フォローアップと連動させて対応するかについても検討が必要である。

4) 講師要件について

○現行の介護教員講習会では、1名の講師がすべての科目を担当している事業者がある [P45]。実施要領上、講師1名がすべての科目を担当することを妨げるものではないが、受講者からも、講師と科目のミスマッチや、講師の知識や能力不足についての不満の声が上がっており [P35]、複数人による講師体制とすることが必要ではないか。

- ・ 専門科目は5名以上の講師が担当する等、何らかの人数要件が必要である。

○各科目担当の講師同士の評価制度や、運営事務局である事業者が講師の評価を集約するなど、一定の講師に関する評価制度が必要ではないか。

○現行の実施要領「5. 講習会の講師等」の(1)には、「ア. 学校教育法に基づく大学、大学院または短期大学の教授、准教授、助教又は講師として5年以上の経歴を有する者」と、「イ. 介護福祉士養成施設又は介護福祉士学校において5年以上の教務主任歴を有する者」の2つの要件がある。これらは、いずれかに該当すればよいこととなっているが、介護教員講習会の講師全員がア. イ. どちらかのみ該当することも想定され、その場合、受講者の満足度には偏りが出るのではないか。どちらかではなく、ア. イ. の双方を要件にするほか、実施要領の記載を変更すると良いのではないか。

○現行の実施要領「5. 講習会の講師等」の(2)には、教育内容編成主任は講師と兼務しても差し支えないとの記載があるため、編成主任が全ての科目を担当しても良いという意味合いと読める。これでは、受講者の評価を適切に行うことや、他の専門性のある講師と連携する等の対応が促進されないため、変更の必要があるのではないか。

- ・ 編成主任の役割と講師の役割を分けるほか、兼務に制限を設ける等の対応を行うべきではないか。

4. 介護教員講習会の時間数に関する意見

- 現行の介護教員講習会では、事業者によって講習時間数が様々である〔P45〕。受講者からも受講スケジュールに関する改善要望が挙がっており〔P37〕、一定期間連続した受講を必須にするのではなく、単位制にし、複数回に分けて受講する等の制度があってもよいのではないか。
- 現行の実施要領の 300 時間を変更する必要はないのではないか。一方で、科目ごとの受講時間数を鑑みた再検討の必要があることも考えられる。
 - ・ 専門基礎分野「教育方法」、専門分野「介護教育方法」については介護教育の根幹であり、実施要領「3. 講習会の内容」の（1）に記載ある時間数を増やす必要があるのではないか。

付属資料

1) 教員調査票

調査票サンプル：ご回答はWEBからお願いします

令和5年1月

厚生労働省 老人保健健康増進等事業
「適切な介護教員講習会のあり方に関する調査研究事業」

介護教員講習会に関するアンケート調査

【本調査の目的】

高い専門性を有する介護人材の確保・育成が喫緊の課題となっている中、介護福祉士を養成する介護福祉士養成校(以下、「養成校」)においては、2019年度からの養成課程への新カリキュラム導入、外国人留学生の増加による学生像の変化などがあり、養成校教員には、これらの変化を踏まえた教授の視点や指導力が求められています。

そのような中、養成校の教員を受講対象者とする「介護教員講習会」については、運営の体制や講習会の内容に差があるという課題があり、一定の標準化が必要とされています。

そこで本事業は、介護教員講習会をこれまで受講された養成校教員の皆様に、受講された講習会の内容や講習会の効果、講習会に望むこと、また既存のご自身の学生指導における課題点や困りごと等についてアンケート調査を実施し、「介護教員講習会」のあるべき姿を検討することといたしました。

これら調査結果は、厚生労働省に報告し、適切な介護教員講習会の運営にむけた検討材料として活用されるものです。本調査の趣旨をご理解いただき、ぜひご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【本調査の対象】

- 介護教員講習会受講済み(全部・もしくは一部)の
・養成校教員の皆様
・福祉系高校に所属する教員の皆様

【回答期限】

1月31日(火)までに WEBにてご回答ください。

【調査票の取扱いに関しまして】

- ご回答いただきました内容につきましては、次のように取扱います。
 - ・調査で得られた内容は、安全措置を講じてデータの漏洩がないように保管し、施設や回答者が特定できないよう統計処理をいたします。また、研究終了後は、個人情報に該当するデータを破棄いたします。
 - ・調査への拒否があっても、そのことで不利益が生じることは一切ございません。

■ 本調査に関する問合せ先

PwCコンサルティング合同会社 公共事業部 (担当：安田(やすだ)・岡田(おかだ))
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi Oneタワー
E-mail: jp_cons_kaigokyooin2022@pwc.com

I. 貴職についてお伺いします。

問1. あなたの教員としての属性を教えてください。(あてはまるものいくつかでもチェック)

1. 養成施設教員 ⇒問1-1へ
2. 福祉系高校教員

[問1で1.を選択した方]

問1-1. あなたが所属する養成施設の種別を教えてください。(最もあてはまるもの1つにチェック)

※複数所属している場合は、主となる養成施設の種別を教えてください。

1. 専門学校 (2年制)
2. 専門学校 (3年制)
3. 短期大学 (1年制)
4. 短期大学 (2年制)
5. 短期大学 (3年制)
6. 4年制大学

[問1で1.を選択した方]

問1-2. あなたが、現在所属する養成施設で、教員としてどのようなお立場にあるか、教えてください。(最もあてはまるもの1つにチェック)

1. 専任講師
2. 非常勤講師

問2. あなたの最終学歴を教えてください。(最もあてはまるもの1つにチェック)

1. 高等学校
2. 専門学校
3. 短期大学
4. 四年制大学
5. 大学院
6. その他

問3. あなたの養成施設・福祉系高校での教員としての経験年数が何年あるかについて、教えてください。(記述式)

教員としての経験年数	通算 () 年
------------	----------

問4. あなたの保持する資格について、以下に該当するものがあるか教えてください。(あてはまるものいくつかでもチェック)

1. 介護福祉士の資格取得後5年以上の実務経験を有する
2. 医師の資格取得後5年以上の実務経験を有する
3. 看護師(保健師・助産師を含む)の資格取得後5年以上の実務経験を有する
4. 大学院、大学、短期大学又は高等専門学校において、教授、准教授、助教授又は講師として、その担当する教育に関し教授する資格を有する
5. 専修学校の専門課程の教員として、その担当する教育に関し3年以上の経験を有する
6. 教科「福祉」の教員免許を有する

問5. 本年度、あなたが教員として所属校で担当している科目を教えてください。（あてはまるものいくつかでもチェック）

※複数の養成校等で勤務している場合、担当する科目すべてをお選びください。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. 人間の尊厳と自立 | 9. こころとからだのしくみ |
| 2. 人間関係とコミュニケーション | 10. 発達と老化の理解 |
| 3. 社会の理解 | 11. 認知症の理解 |
| 4. 介護の基本 | 12. 障害の理解 |
| 5. コミュニケーション技術 | 13. 医療的ケア |
| 6. 生活支援技術 | 14. 医療的ケア（演習） |
| 7. 介護過程 | |
| 8. 介護総合演習 | |

II. あなたの講義についての取組・課題についてお伺いします。

問6. 授業を行う上での事前準備にかかる各種取組について、対応状況を教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	対応状況（選択肢/SA）
1. 授業案の作成	1. 概ね対応できている 2. 部分的に対応できている 3. あまり対応できていない 4. 対応できていない
2. 求められる介護福祉士像を意識した授業づくり	
3. 領域の目的、教育内容のねらいを理解した授業づくり	
4. 教育に含むべき事柄と留意点を理解した授業づくり	
5. 新カリキュラムにおいて新たに追加された内容等に対応した授業づくり	
6. アクティブラーニングを意識した授業づくり	
7. 最新のニュースや情勢に対応した授業づくり	
8. 学生やクラスの状態に合わせた授業づくり	
9. その他（ ）	

問7. 学生に複合的な学びを提供するための各種取組について、対応状況を教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	対応状況（選択肢/SA）
1. 他科目との教育内容の連携	1. 概ね対応できている 2. 部分的に対応できている 3. あまり対応できていない 4. 対応できていない
2. 介護実習施設との連携	
3. 地域の介護関連分野との連携	
4. その他（ ）	

問8. 各種授業展開方法について、どの程度対応できているか、対応状況を教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	対応状況（選択肢/SA）
1. 事例研究の展開	1. 概ね対応できている 2. 部分的に対応できている 3. あまり対応できていない 4. 対応できていない
2. グループワークの展開	
3. ロールプレイの展開	
4. 実地体験を組み込んだ展開	
5. その他（ ）	

問9. 学生の指導や評価にかかる各種取組について、対応状況を教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	対応状況（選択肢/SA）
1. 学生の学習進捗に合わせた学習に対する個別対応 2. 生活指導・カウンセリング等、学習以外のサポートを必要とする学生への個別対応 3. 学生の自発的な学びを促進するための対応 4. 多様化する学生への対応 5. 調査・研究方法の指導 6. その他（ ）	1. 概ね対応できている 2. 部分的に対応できている 3. あまり対応できていない 4. 対応できていない

問10. 学生の社会的マナーやコミュニケーション力等、社会人基礎力習得の指導にかかる取組について、対応状況を教えてください。（最もあてはまるもの1つにチェック）

1. 概ね対応できている
2. 部分的に対応できている
3. あまり対応できていない
4. 対応できていない

問11. あなたが、教員としての対応事項について、どの程度課題を感じているかについて教えてください。また、教員として介護福祉士養成を始める前に、どのような事柄に関する学習（研修受講等）をしておく必要性を感じるかについて教えてください（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	課題感（選択肢/SA）	介護福祉士養成を始める前に学習しておくべきと思う事柄（選択肢/SA）
1. 講義準備等、授業を行う上での事前準備 2. 科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組 3. 様々な手法を活用した授業展開 4. 学生の個別指導や評価 5. 学生の社会人基礎力に関する指導 6. その他（ ）	1. 課題を感じる 2. やや課題を感じる 3. あまり課題を感じない 4. 課題を感じない	1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. そう思わない

問12. あなたが、教員として以下の能力をどの程度発揮できているかについて教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	発揮状況（選択肢/SA）
1. 教育実践能力 2. 介護福祉の実践能力 3. 研究能力 4. 管理能力 5. 個人の成長 6. 倫理観 7. 人間性	1. 大いに発揮している 2. 中程度発揮している 3. 少し発揮している 4. 発揮していない

Ⅲ. 介護教員講習会についてお伺いします。

問13. あなたが介護教員講習会を受講した理由について教えてください。（あてはまるものいくつかでもチェック）

1. 介護教員の職務に就くため
2. 所属校の科目編成担当になるため
3. 所属校の教務主任になるため
4. 職務に関わらず、自らの能力を高めるため
5. 所属施設や所属校で勧められたため
6. その他（ ）
7. 特に理由はない

問14. あなたが受講した介護教員講習会の実施団体を教えてください。（最もあてはまるもの1つにチェック）

※複数の団体の講習会を受講している場合は、最後に受講した団体をお選びください。

1. 公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学 実践・教育センター
2. 学校法人 敬心学園職業教育研究開発センター
3. 公益社団法人 日本介護福祉士養成施設協会
4. 一般社団法人 たなごころ
5. 公益社団法人 大阪介護福祉士会
6. 有限会社 ホットラインワールド
7. その他（ ）

問15. あなたが受講した介護教員講習会について、複数実施団体があるなか、当該実施団体を選んだ理由を教えてください。（あてはまるものいくつかでもチェック）

1. 受講場所の都合が良かったから
2. 受講スケジュール等の都合が良かったから
3. 受講料の都合が良かったから
4. 実施団体の信頼度が高いから
5. 講師が魅力的であったから
6. その他（ ）
7. 特に理由はない

問16. あなたが介護教員講習会を受講した際、当時の所属校、もしくは所属予定の学校から講習会の費用負担の補助があったかについて教えてください。（最もあてはまるもの1つにチェック）

1. 全額、費用の補助があった
2. 一部、費用の補助があった
3. 補助はなかった
4. 当時、所属校（所属予定を含む）はなかった

問17. あなたが介護教員講習会を受講した時期を教えてください。（最もあてはまるもの1つにチェック）

1. 介護教員の職務を経験する前
2. 介護教員の職務を経験した後 ⇒問17-1へ

[問17で2.を選択した方]

問17-1. 教員経験何年目で介護教員講習会を受講されたか教えてください。（記述式）

介護教員講習会の 受講時期	教員経験（___）年目で受講
------------------	----------------

問18. あなたの介護教員講習会修了の状況を教えてください。（最もあてはまるもの1つにチェック）

1. 全ての科目を修了 ⇒問18-1へ
2. 一部科目を修了 ⇒問18-2へ

[問18で1.を選択した方]

問18-1. あなたの選択された基礎分野の科目（2科目）を教えてください。（あてはまるもの2つのみチェック）

1. （基礎分野）社会福祉学
2. （基礎分野）生活学
3. （基礎分野）人間関係論
4. （基礎分野）心理学

[問18で2.を選択した方]

問18-2. 修了された科目を教えてください。（あてはまるものいくつでもチェック）

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1. （基礎分野）社会福祉学 | 10. （専門基礎分野）教育心理 |
| 2. （基礎分野）生活学 | 11. （専門基礎分野）教育評価 |
| 3. （基礎分野）人間関係論 | 12. （専門分野）介護福祉学 |
| 4. （基礎分野）心理学 | 13. （専門分野）介護教育方法 |
| 5. （基礎分野）哲学 | 14. （専門分野）学生指導・カウンセリング |
| 6. （基礎分野）倫理学 | 15. （専門分野）実習指導方法 |
| 7. （基礎分野）法学 | 16. （専門分野）介護過程の展開方法 |
| 8. （専門基礎分野）教育学 | 17. （専門分野）コミュニケーション技術 |
| 9. （専門基礎分野）教育方法 | 18. （専門分野）研究方法 |

問19. あなたが受講した介護教員講習会では、受講後、何らかの学び直しの機会の提供（追加の講習等）はありましたか。（あてはまるもの1つにチェック）

1. あった →（具体的に _____）
2. なかった

問20. あなたが受講した介護教員講習会における受講満足度について、以下の項目ごとに教えてください。（最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	対応状況（選択肢/SA）
1. 講師の能力・対応について	1. 満足 2. やや満足 3. やや不満 4. 不満
2. 講習のカリキュラム・内容について	
3. 運営事務局（事務手続き等）に対して	
4. 講習会場・設営等について	
5. 講習全体について（総合満足度）	

問21. あなたが受講した介護教員講習会について、満足した点があれば、その内容を教えてください。（記述式）

満足した理由	<講師の能力・対応について>
	<講習のカリキュラム・内容について>
	<運営事務局（事務手続き等）に対して>
	<講習会場・設営等について>
	<その他>

問22. あなたが受講した介護教員講習会について、不満な点があれば、その内容を教えてください。（記述式）

不満足である理由	<講師の能力・対応について>
	<講習のカリキュラム・内容について>
	<運営事務局（事務手続き等）に対して>
	<講習会場・設営等について>
	<その他>

問23. あなたが介護教員講習会で学んだことが、どのような点で役に立っているかについて、それぞれ教えてください。（それぞれ最もあてはまるもの1つにチェック）

対応事項（設問）	対応状況（選択肢/SA）
1. 講義準備等、授業を行う上での事前準備	1. 役に立っている 2. やや役に立っている 3. あまり役に立っていない 4. 役に立っていない
2. 科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組	
3. 様々な手法を活用した授業展開	
4. 学生の個別指導や評価	
5. 学生の社会人基礎力に関する指導	
6. その他（ ）	

Ⅳ. 教員としての自己研鑽にかかる取組・課題についてお伺いします。

問24. 今後、介護福祉士養成をしていくにあたり、介護教員講習会の各科目で学び直しの必要性を感じている科目を教えてください。（あてはまるものいくつかでもチェック）

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1. (基礎分野) 社会福祉学 | 10. (専門基礎分野) 教育心理 |
| 2. (基礎分野) 生活学 | 11. (専門基礎分野) 教育評価 |
| 3. (基礎分野) 人間関係論 | 12. (専門分野) 介護福祉学 |
| 4. (基礎分野) 心理学 | 13. (専門分野) 介護教育方法 |
| 5. (基礎分野) 哲学 | 14. (専門分野) 学生指導・カウンセリング |
| 6. (基礎分野) 倫理学 | 15. (専門分野) 実習指導方法 |
| 7. (基礎分野) 法学 | 16. (専門分野) 介護過程の展開方法 |
| 8. (専門基礎分野) 教育学 | 17. (専門分野) コミュニケーション技術 |
| 9. (専門基礎分野) 教育方法 | 18. (専門分野) 研究方法 |

問25. 介護福祉士養成をしていくにあたり、現在、自己研鑽が必要だと感じている事柄を教えてください。（あてはまるものいくつかでもチェック）

1. 講義準備等、授業を行う上での事前準備
→ (具体的に)
2. 科目間連携・実習との連携等、学生に複合的な学びを提供するための取組
→ (具体的に)
3. 様々な手法を活用した授業展開
→ (具体的に)
4. 学生の個別指導や評価
→ (具体的に)
5. 学生の社会人基礎力に関する指導
→ (具体的に)
6. その他 ()
7. 特になし

問26. 介護教員講習会の在り方について、自由にご意見をお願いします。（記述式）

介護教員講習会への意見	※詳細に教えてください。
-------------	--------------

以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。

2)介護教員講習会実施者調査(アンケート調査票)

研修概要記載シート

実施者名:

質問 1: 西暦何年から、この介護教員講習会を実施されていますか。	西暦 () 年
質問 2: 令和 3 年度で計何回講習を開催されましたか。	計 () 回
質問 3: 介護教員講習会実施要領に記載の講習会の内容以上にカリキュラムを設定していますか。【時間数をプラス、内容をプラス等 ※ https://kenzokyoiki.nhw.go.jp/kenzokyo_fukui/1001/240/pd.pdf 】	はい・いいえ
質問 4: 科目ごとのシラバスは作成されていますか。	はい・いいえ

質問 5: 講習の概要に関する、以下 8 つの項目について、ご指示ください。↓

1-1. 受講者要件	※ 受講対象者に何等かの要件を定めている場合、ご記載ください。 (教員経験〇年以上、保持資格●●等)	
1-2. 受講者人数	※ 過去3か年の開催分について、受講者の人数をご記載ください。	R3 () 人、R2 () 人、R1 () 人
1-3. R3 受講者属性	※ R3 開催分について、受講者の属性(養成校教員年数、現職の教員か否か、保有資格等)についてアータをお持ちでしたらご記載ください。	
1-4. 受講終了要件	※ 介護教員講習会にて、受講終了要件を設けられている場合、どのような要件かご記載ください。	
2. 講師の要件	※ 講師の要件を定めている場合、ご記載ください。(教員経験〇年以上、保持資格●●等)	
3. 講習効果	※ 講師参加者に対し、どのように講習効果を確認しているかご記載下さい。また、確認結果を、どのように活用されているか、ご記載ください。	
4. 受講終了後の対応	※ 受講者へのフォローアップ等、何等が行っている場合は、内容を記載ください。	

質問 6: 講習の課題について以下それぞれ載せてください。↓

1. 講習会内容関連	① 受講者、受講要件に関する課題	
	② 講師、講師要件に関する課題	
	③ カリキュラム、シラバスに関する課題	
2. 講習会運営関連	① 事務局体制における課題	
	② 講師体制に関する課題	
	③ 講習会運営におけるその他の課題	

令和4年度老人保健事業推進費等補助金(老人保健健康増進等事業分)

適切な介護教員講習会のあり方に関する調査研究事業
報告書

令和5年3月

PwC コンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町 1-2-1

Otemachi One タワー

TEL : 03-6257-0700(代表)

[JOBコード:Y185]